

S O A I U n i v e r s i t y

**Syllabus**

**講義要綱**

**令和元年度(2019)**

**相愛大学**

# 講義要綱の見方

巻頭の2019年度授業科目一覧で自分の回生の配当科目を確認し、  
インデックス番号で履修する授業科目をさがして講義要綱をよく読むこと。

インデックス番号



例)

1-001

ナンバリング	CC100A01	期間	前期
授業科目名	建学の精神/當相敬愛と浄土真宗 I		
英訳科目名	The Philosophy of Soai University (Shin Buddhism) /The Philosophy of Soai University within the Shin Buddhism I		
担当教員名	中平 了悟		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	○
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	◎
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>相愛大学の名称は、大乘仏教経典『仏説無量寿経』に述べられている「當相敬愛」から命名されました。「お互いに敬い慈しみあう」という意味です。この大乘仏教の精神こそ、相愛大学「建学の精神」です。</p> <p>さらに、建学の精神には「浄土真宗の精神に基づく教育により、有為な人材を育成することを目的とする」と述べられています。つまり、本講義では大乘仏教の思想と浄土真宗の精神を学ぶことで、相愛大学生としての基盤形成を目指します。</p> <p>本講義を通して、人間を深く見つめ直し、相愛大学生の自覚を涵養しましょう。</p> <p>また、この講義では月一回の「定例礼拝」をはじめ、宗教行事への参加を評価対象としています。この点はよく自覚してください。</p>		
到達目標	<p>本講義と宗教行事への参加を通して、「宗教」というものを知ることから始まり、人類の叡智の結晶である「仏教」の基礎を学ぶ。</p> <p>「大乘仏教」「日本仏教」、そして「浄土真宗」へと展開する道筋をたどっていき、本学の「建学の精神」を充分に理解できるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 相愛大学で学ぶということについて</p> <p>第2回 人間と宗教 (1) 基礎</p> <p>第3回 人間と宗教 (2) 発展</p> <p>第4回 仏教を学ぶ：ブッダの生涯</p> <p>第5回 仏教を学ぶ：仏教思想の基盤</p> <p>第6回 仏教を学ぶ：大乘仏教への展開</p> <p>第7回 大乘仏教を学ぶ (1) 基礎</p> <p>第8回 大乘仏教を学ぶ (2) 発展</p> <p>第9回 親鸞聖人の教え</p> <p>第10回 浄土真宗を学ぶ (1) 基礎</p> <p>第11回 浄土真宗を学ぶ (2) 発展</p> <p>第12回 日本文化について考える</p> <p>第13回 相愛大学の歴史と精神</p> <p>第14回 相愛大学「建学の精神」について考える</p> <p>第15回 まとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>講義への参加態度 (参加状況) ・宗教行事への参加 55%</p> <p>試験・レポート・課題・提出物 45%</p>		
失格条件	3分の1以上欠席した場合、失格とする。		
予習・復習の準備 学習などのアド バイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時間外における予習・復習等のアドバイス 身の周りの「宗教的なもの」を観察してみよう。 一度、仏教の本を読んでみよう。 大学の宗教行事に参加して、自分自身を見つめてみよう。</li> <li>・授業時間外における予習・復習等に必要時間 講義で紹介する文献や仏教教義・宗教思想に関する参考文献を読む…予習 2時間 (90分) 講義で取り上げた問題や仏教教義・宗教思想について整理する………復習 2時間 (90分)</li> </ul>		
課題へのフィード バック	講義内容や宗教行事に関して提出した課題については、必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。		
教科書	原則として指定しない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	月に一度の「定例礼拝」へ出席し、レポートを提出した者は、適宜評価する。		
備考	僧侶としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

# 目 次

## ◎授業科目一覽

2019年度 授業科目一覽	p.3
---------------	-----

## ◎講義要綱

1. 基礎科目・共通科目	p.47
2. 音楽学部 共通専門科目	p.141
3. 音楽学部 専門科目	p.285
4. 人文学部	p.621
5. 人間発達学部	p.841
6. 教職課程科目	p.1067
7. 図書館司書課程科目	p.1111
8. 留学生科目	p.1137
9. 専攻科目	p.1157
10. 大学院	p.1179



Index	配当 年次	2016 (H28)年度入学生 Ⅳ回生用	配当 年次	2017 (H29)年度入学生 Ⅲ回生用	配当 年次	2018	2018(H30)年度入学生 Ⅱ回生用	配当 年次	2019	2019(H31)年度入学生 Ⅰ回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科目生
5-210	Ⅳ	栄 管理栄養士演習D									集中	小野 くに子	
5-211	Ⅳ	栄 管理栄養士演習D									集中	庄條 愛子	
5-212	Ⅳ	栄 管理栄養士演習D									集中	竹山 育子	
5-213	Ⅳ	栄 管理栄養士演習D									集中	古川 和子	
5-214	Ⅳ	栄 管理栄養士演習D									集中	杉山 文	
5-215	Ⅳ	栄 卒業研究									通年	藤本 繁夫	
5-216	Ⅳ	栄 卒業研究									通年	角谷 順	
5-217	Ⅳ	栄 卒業研究									通年	水野 浄子	
5-218	Ⅳ	栄 卒業研究									通年	今井 ももこ	
5-219	Ⅳ	栄 卒業研究									通年	品川 英朗	
5-220	Ⅳ	栄 卒業研究									通年	竹山 育子	
5-221	Ⅳ	栄 卒業研究									通年	庄條 愛子	
5-222	Ⅳ	栄 卒業研究									通年	杉山 文	
5-223	Ⅳ	栄 卒業研究									通年	古川 和子	
5-224	Ⅳ	栄 卒業研究									通年	小野 くに子	

## 6. 教職課程科目

Index	配当 年次	2016 (H28)年度入学生 Ⅳ回生用	配当 年次	2017 (H29)年度入学生 Ⅲ回生用	配当 年次	2018	2018(H30)年度入学生 Ⅱ回生用	配当 年次	2019	2019(H31)年度入学生 Ⅰ回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科目生
6-001	Ⅱ	教 教職入門	Ⅱ	教 教職入門	Ⅱ	教 教職入門	教職入門				前期/後期	長谷川 精一	E
6-002	Ⅰ	教 教育心理学	Ⅰ	教 教育心理学	Ⅰ	教 教育心理学	教育心理学	Ⅰ	教 教育心理学	Ⅰ	後期	池本 真知子	E
6-003	Ⅰ	教 教育心理学	Ⅰ	教 教育心理学	Ⅰ	教 教育心理学	教育心理学	Ⅰ	教 教育心理学	Ⅰ	集中	渡邊 ひとみ	E
6-004	Ⅱ	教 学校の制度と経営	Ⅱ	教 学校の制度と経営	Ⅱ	教 学校の制度と経営	学校の制度と経営	Ⅱ			集中	高橋 みづき	E
6-005	Ⅱ	教 学校の制度と経営	Ⅱ	教 学校の制度と経営	Ⅱ	教 学校の制度と経営	学校の制度と経営	Ⅱ			後期	弘田 みな子	E
6-006	Ⅱ	教 学校の制度と経営 (幼・小)	Ⅱ	教 学校の制度と経営 (幼・小)	Ⅱ	教 学校の制度と経営	学校の制度と経営 (幼・小)	Ⅱ			前期	弘田 みな子	E
6-007									Ⅰ	教 特別支援教育	前期/後期	坂井 美恵子	E
6-008	Ⅲ	教 教育課程の意義と編成	Ⅲ	教 教育課程の意義と編成	Ⅲ						前期	奥野 浩之	E
6-009	Ⅲ	教 教育の方法と技術	Ⅲ	教 教育の方法と技術	Ⅲ						前期/後期	沼田 潤	E
6-010	Ⅲ	教 道徳教育論	Ⅲ	教 道徳教育論	Ⅲ						前期	倉本 香	E

Index	配当 年次	2016 H28	2016(H28)年度入学生 IV回生用	配当 年次	2017 H29	2017(H29)年度入学生 III回生用	配当 年次	2018	2018(H30)年度入学生 II回生用	配当 年次	2019	2019(H31)年度入学生 I回生用	区分	2019(H31)年度 担当者	H31 科目生
6-011	II	教	特別活動論	II	教	特別活動論	II	教	特別活動論				前期/後期	天野 義美	E
6-012	II	教	生徒・進路指導論	II	教	生徒・進路指導論	II	教	生徒・進路指導論				集中	吉田 卓司	E
6-013	II	教	生徒指導論	II	教	生徒指導論	II	教	生徒指導論				後期	馬場 義伸	E
6-014	II	教	教育相談	II	教	教育相談	II	教	教育相談				集中	吉田 卓司	E
6-015	II	教	教育史	II	教	教育史	II	教	教育史				後期	長谷川 精一	E
6-016	III	教	障害児教育	III	教	障害児教育							後期	阿部 優里	E
6-017	II	教	異文化間教育論	II	教	異文化間教育論	II	教	異文化間教育論				後期	沼田 潤	E
6-018	III	教	音楽科教育法A	III	教	音楽科教育法A							前期	石井 尚子	E
6-019	III	教	音楽科教育法A	III	教	音楽科教育法A							前期	田中 龍三	E
6-020	III	教	音楽科教育法B	III	教	音楽科教育法B							後期	石井 尚子	E
6-021	III	教	音楽科教育法B	III	教	音楽科教育法B							後期	田中 龍三	E
6-022	III	教	音楽科教育法C	III	教	音楽科教育法C							前期	石井 尚子	E
6-023	III	教	音楽科教育法C	III	教	音楽科教育法C							前期	田中 龍三	E
6-024	III	教	音楽科教育法D	III	教	音楽科教育法D							後期	石井 尚子	E
6-025	III	教	音楽科教育法D	III	教	音楽科教育法D							後期	田中 龍三	E
6-026	III	教	国語科教育法A	III	教	国語科教育法A							集中	井上 雅彦	E
6-027	III	教	国語科教育法B	III	教	国語科教育法B							集中	井上 雅彦	E
6-028	III	教	国語科教育法C	III	教	国語科教育法C							前期	鈴木 徳男	
6-029	III	教	国語科教育法D	III	教	国語科教育法D							後期	荒井 真理亜	
6-030	III	教	宗教科教育法A	III	教	宗教科教育法A							前期	村上 泰順	E
6-031	III	教	宗教科教育法B	III	教	宗教科教育法B							後期	村上 泰順	E
6-032	III	教	宗教科教育法C	III	教	宗教科教育法C							前期	村上 泰順	
6-033	III	教	宗教科教育法D	III	教	宗教科教育法D							後期	村上 泰順	
6-034	IV	教	教育実習1 (事前事後指導)										通年	長谷川 精一・沼田 潤	B
6-035	IV	教	教育実習2 (実地実習)										通年集中	長谷川 精一・沼田 潤	B
6-036	IV	教	教育実習3 (実地実習)										通年集中	長谷川 精一・沼田 潤	B
6-037	III	教	介護体験	III	教	介護体験							前期	長谷川 精一・沼田 潤・雲井 稔	B
6-038	IV	教	教職実践演習 (中・高)										後期	長谷川 精一・沼田 潤	B

Index	配当 年次	2016 教	2016(H28)年度入学生 Ⅳ回生用	2016 配当 年次	2017 司	2017(H29)年度入学生 Ⅲ回生用	2017 配当 年次	2018 司	2018(H30)年度入学生 Ⅱ回生用	2018 配当 年次	2019 教	2019(H31)年度入学生 Ⅰ回生用	2019 配当 年次	2019(H31)年度 担当者	H31 科目生
6-039	Ⅳ	教	教職実践演習 (栄養教諭)								専	教職特別演習 A		小野 <に子+山北 人志	B
6-040											専	教職特別演習 B		長谷川 精一・沼田 潤	E
6-041											専	教職特別演習 B		長谷川 精一・沼田 潤	E

## 7. 図書館司書課程科目

Index	配当 年次	2016 司	2016(H28)年度入学生 Ⅳ回生用	2016 配当 年次	2017 司	2017(H29)年度入学生 Ⅲ回生用	2017 配当 年次	2018 司	2018(H30)年度入学生 Ⅱ回生用	2018 配当 年次	2019 司	2019(H31)年度入学生 Ⅰ回生用	2019 配当 年次	2019(H31)年度 担当者	H31 科目生
7-001	Ⅰ	司	図書館概論	Ⅰ	司	図書館概論	Ⅰ	司	図書館概論					岡田 大輔	E
7-002	Ⅱ	教	学校経営と学校図書館	Ⅱ	教	学校経営と学校図書館	Ⅱ	教	学校経営と学校図書館					岡田 大輔	E
7-003	Ⅱ	教	学校図書館メディアの構成	Ⅱ	教	学校図書館メディアの構成	Ⅱ	教	学校図書館メディアの構成					岡田 大輔	E
7-004	Ⅱ	教	学習指導と学校図書館	Ⅱ	教	学習指導と学校図書館	Ⅱ	教	学習指導と学校図書館					米谷 優子	E
7-005	Ⅲ	教	読書と豊かな人間性	Ⅲ	教	読書と豊かな人間性	Ⅲ	教	読書と豊かな人間性					米谷 優子	E
7-006	Ⅲ	教	情報メディアの活用	Ⅲ	教	情報メディアの活用	Ⅲ	教	情報メディアの活用					岡田 大輔	E
7-007	Ⅱ	司	図書館制度・経営論	Ⅱ	司	図書館制度・経営論	Ⅱ	司	図書館制度・経営論					小西 和夫	E
7-008	Ⅰ	司	図書館情報技術論	Ⅰ	司	図書館情報技術論	Ⅰ	司	図書館情報技術論	Ⅰ	司	図書館情報技術論		岡田 大輔	E
7-009	Ⅰ	司	図書館サービス概論	Ⅰ	司	図書館サービス概論	Ⅰ	司	図書館サービス概論	Ⅰ	司	図書館サービス概論		森 美由紀	E
7-010	Ⅱ	司	情報サービス論	Ⅱ	司	情報サービス論	Ⅱ	司	情報サービス論	Ⅱ	司	情報サービス論		岡田 大輔	E
7-011	Ⅱ	司	児童サービス論	Ⅱ	司	児童サービス論	Ⅱ	司	児童サービス論	Ⅱ	司	児童サービス論		米谷 優子	E
7-012	Ⅲ	司	情報サービス演習1	Ⅲ	司	情報サービス演習1	Ⅲ	司	情報サービス演習1					森 美由紀	E
7-013	Ⅲ	司	情報サービス演習2	Ⅲ	司	情報サービス演習2	Ⅲ	司	情報サービス演習2					森 美由紀	E
7-014	Ⅱ	司	図書館情報資源概論	Ⅱ	司	図書館情報資源概論	Ⅱ	司	図書館情報資源概論					岡田 大輔	E
7-015	Ⅱ	司	情報資源組織論1	Ⅱ	司	情報資源組織論1	Ⅱ	司	情報資源組織論1					岡田 大輔	E
7-016	Ⅲ	司	情報資源組織論2	Ⅲ	司	情報資源組織論2	Ⅲ	司	情報資源組織論2					岡田 大輔	E
7-017				Ⅱ	司	情報資源組織論	Ⅱ	司	情報資源組織論	Ⅱ	司	情報資源組織論		岡田 大輔	E
7-018	Ⅱ	司	情報資源組織演習1	Ⅱ	司	情報資源組織演習1	Ⅱ	司	情報資源組織演習1					飯尾 健	E
7-019	Ⅲ	司	情報資源組織演習2	Ⅲ	司	情報資源組織演習2	Ⅲ	司	情報資源組織演習2					飯尾 健	E
7-020				Ⅱ	司	情報資源組織演習	Ⅱ	司	情報資源組織演習	Ⅱ	司	情報資源組織演習		岡田 大輔	E
7-021	Ⅲ	司	図書・図書館史	Ⅲ	司	図書・図書館史	Ⅲ	司	図書・図書館史					岡田 大輔	E
7-022	Ⅲ	司	図書館基礎特論	Ⅲ	司	図書館基礎特論	Ⅲ	司	図書館基礎特論					小西 和夫	E



## 6. 教職課程科目







6-001

ナンバリング	TE201A01	期間	前期/後期
授業科目名	教職入門		
英訳科目名	Introduction to Teacher Education		
担当教員名	長谷川 精一		
ディプロマ・ポリシー1	◎	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	教職の意義とは何か、また、現在の学校が置かれた状況のもとで、生徒の特質と生徒の抱える問題を深く理解し、生徒の成長に寄与するためには、教師にはどのような資質が必要であり、どのような役割を果たすべきなのかを考え、教師の職務内容を理解し、生徒の進路選択に資する各種の機会を提供するための方法について探求していく。		
到達目標	教職を考える上での核となる概念や本質的な見方、教師の役割について理解を深めること、研修、服務内容、身分保障等教師の職務内容を理解すること、生徒の進路選択に資する様々な機会を提供できる力を育成することを目標とする。		
授業計画	第1回 導入：授業の概要と到達目標 第2回 教職の意義 第3回 戦前における教師像の変遷 第4回 戦後における教師像の変遷 第5回 教員の役割 第6回 これまでの内容理解の確認 第7回 教員の職務内容：研修 第8回 教員の職務内容：服務 第9回 教員の職務内容：身分保障 第10回 教員の置かれている環境：教師の同僚性 第11回 教員の置かれている環境：教師と保護者の関係性 第12回 教員の置かれている環境：地域との協働 第13回 生徒の成長と進路選択の意味 第14回 進路選択に資する様々な機会の活用 第15回 講義のまとめと内容理解の確認		
評価方法 (合計100%)	毎回の授業内でのレポート提出（60%）と2度の内容理解の確認のための小テスト（20%）を、授業への参加意欲、授業態度（20%）と合わせて評価する。		
失格条件	3分の1以上の欠席、もしくは、レポート未提出、小テスト未受験の場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業中に、その回の授業の内容に基づいて、また、次回の授業の準備として、各自自宅で書くようにと指定した課題レポート、あるいは、読むようにと指定した参考文献に関しては十分な時間（大学設置基準の定めによれば、1回の授業に対して4時間（大学の1時間は45分として考えることとなっているため、180分）以上）をかけて取り組むこと。		
課題へのフィードバック	授業で課題へのフィードバックを行う。		
教科書	特定の教科書は用いず、必要に応じてプリント等を配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	TE201A02	期間	後期
授業科目名	教育心理学		
英訳科目名	Educational Psychology		
担当教員名	池本 真知子		
ディプロマ・ポリシー1	◎	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	本講義では、児童や生徒をよりよく理解するため、認知のおよび社会的発達過程についての知識習得を基礎としながら、主として学習理論や動機づけの観点から学習者の理解を目指す。また、発達障がいやいじめ等のテーマも取り上げ、支援教育についての説明を行う。さらに、教育者側の留意点として、教授方法や評価方法、評価時のバイアス等の教育現場で役立つ知識についての説明も行う。		
到達目標	児童および生徒の心身の発達や学習過程を理解し、各発達段階に応じた学習活動を支える基礎的知識を身に付ける。本科目では、(1) 児童期から青年期にかけての認知的発達、社会的発達、および自己発達の特徴を理解し、これらの心理学的諸発達が身体的発達とどのように相互作用するのかを理解していること、また(2) 児童および生徒の仲間関係の変化や動機づけ、および適切な行動の増進に役立つ学習理論についての知識を習得することを到達目標とする。		
授業計画	第1回 学童期および思春期（青年期初期）の身体的発達と自尊感情 第2回 学童期および思春期（青年期初期）における自己概念の発達 第3回 青年期中期および後期におけるアイデンティティ発達 第4回 学級内の対人関係について (1) 仲間との関わりと道徳性発達について 第5回 学級内の対人関係について (2) いじめの形態と対応について 第6回 学習者の理解について (1) 記憶のシステムと学習について 第7回 学習者の理解について (2) 動機づけの種類と帰属について 第8回 学習者の理解について (3) 学習における動機づけの向上について 第9回 学習理論と教育 第10回 発達障がいについて (1) 自閉症スペクトラム障がい (ASD) について 第11回 発達障がいについて (2) 注意欠陥多動性障がい (ADHD) について 第12回 学習障がい 第13回 教育者の留意点について (1) 教授方法について 第14回 教育者の留意点について (2) 評価方法について 第15回 まとめ 期末試験		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 (30%) と学期末試験の成績 (70%) から総合的に評価する。ただし、授業への参加態度は出席するだけでなく、自ら主体的に考え、取り組むことを条件とする。		
失格条件	(1) 特別な事情がない限り、1/3以上授業を欠席した場合は失格とする。 (2) 学期末試験を受験しなかった場合は失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	指定テキストはないため、毎回配布するプリントを中心に予習、復習をすること。適宜参考書については講義中に伝えます。 <予習について> 毎回ポータルサイトに授業のスライドを1週間前にアップしますので各自でプリントアウトしてスライドの内容とワークシートの内容を読んでおくこと。授業の際にスライドとワークシートを必ずもってこること。特に、心理学の基礎的知識をもっていることを前提として講義を進めるので予習として各自で予め心理学の基礎的知識（わからない専門用語）を復習しておくこと（1時間）。 <復習について> 毎回の授業中でワークシートの課題をまとめる小レポートがあります。そのレポートを毎回授業終了時に回収します。そのレポートをチェックし、返却します。評価やコメントを注意し、もう一度見直して復習しておくこと（3時間）。 授業では、グループ課題や発表がありますので積極的な参加してください。 授業では動画教材を見たり、紹介したりします。予習や復習に活用してください。		
課題へのフィードバック	毎回提出するワークシート（小レポート）に関しては、必要に応じてコメントやアドバイスをして返却します。必要に応じて授業で質問など授業の講評をします。 授業でのグループディスカッションやグループ課題への取り組みに対しても必要に応じて個別にコメントします。 定期試験（レポート）の後に総合的な授業評価と定期試験の講評をします(ポータルサイトにアップします)。		
教科書	適宜プリント配布。		
著者名			
出版社			
参考書	心理学概論[第2版] (岡市廣成・鈴木直人 (監修) 青山謙二郎・神山貴弥・武藤崇・畑敏道 (編)、ナカニシヤ出版)		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	TE201A02	期間	集中
授業科目名	教育心理学		
英訳科目名	Educational Psychology		
担当教員名	渡邊 ひとみ		
ディプロマ・ポリシー1	◎	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	本講義では、児童や生徒をよりよく理解するため、認知的および社会的発達過程についての知識習得を基礎としながら、主として学習理論や動機づけの観点から学習者の理解を目指す。また、発達障がいやいじめ等のテーマも取り上げ、支援教育についての説明を行う。さらに、教育者側の留意点として、教授方法や評価方法、評価時のバイアス等の教育現場で役立つ知識についての説明も行う。		
到達目標	児童および生徒の心身の発達や学習過程を理解し、各発達段階に応じた学習活動を支える基礎的知識を身に付ける。本科目では、(1) 児童期から青年期にかけての認知的発達、社会的発達、および自己発達の特徴を理解し、これらの心理学的諸発達が身体的発達とどのように相互作用するのかを理解していること、また(2) 児童および生徒の仲間関係の変化や動機づけ、および適切な行動の増進に役立つ学習理論についての知識を習得することを到達目標とする。		
授業計画	第1回 学童期および思春期（青年期初期）の身体的発達と自尊感情 第2回 学童期および思春期（青年期初期）における自己概念の発達 第3回 青年期中期および後期におけるアイデンティティ発達 第4回 学級内の対人関係について (1) 仲間との関わりと道徳性発達について 第5回 学級内の対人関係について (2) いじめの形態と対応について 第6回 学習者の理解について (1) 記憶のシステムと学習について 第7回 学習者の理解について (2) 動機づけの種類と帰属について 第8回 学習者の理解について (3) 学習における動機づけの向上について 第9回 学習理論と教育 第10回 発達障がいについて (1) 自閉症スペクトラム障がい（ASD）について 第11回 発達障がいについて (2) 注意欠陥多動性障がい（ADHD）について 第12回 学習障がい 第13回 教育者の留意点について (1) 教授方法について 第14回 教育者の留意点について (2) 評価方法について 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 30% 定期試験 70%		
失格条件	(1) 特別な事情がない限り、1/3以上授業を欠席した場合は失格とする。 (2) 試験の受験を放棄した場合は失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業内で扱った内容を踏まえた上で次講義を進めるため、次回講義までに各講義内容を復習しておくこと。 (復習 1時間)		
課題へのフィード バック	試験終了後、ポータルサイトを通じて、全体に向けてコメントする。		
教科書	なし。授業中に適宜資料等を配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	心理学概論[第2版]（岡市廣成・鈴木直人（監修） 青山謙二郎・神山貴弥・武藤崇・畑敏道（編）、ナカニシヤ出版）		
その他	特になし。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	TE201A03	期間	集中
授業科目名	学校の制度と経営		
英訳科目名	School System and Management		
担当教員名	高橋 みづき		
ディプロマ・ポリシー1	◎	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	本講義では、学校の歴史的展開、また教育法規と教育行政の仕組みについて学び、教育活動を支える諸制度やその思想的基盤について理解を深めます。次に、現代の学校教育が直面する諸課題を視野にいれながら、学校経営とはどのようなものであるかを理解し、その課題や今後の展望について考察します。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公教育制度の原理について説明することができる。</li> <li>・教育法制の基本的構造について理解し、説明することができる。</li> <li>・教育行政の組織と職務、またその理念について説明することができる。</li> <li>・教職に必要なとなる学校経営上の知識を使用することができる。</li> </ul>		
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 教育制度の基礎知識 (1) 学校制度の成立と学校体系 第3回 教育制度の基礎知識 (2) 教育法制とその構造 第4回 教育制度の基礎知識 (3) 公教育の原理 第5回 教育行政の仕組み (1) 中央教育行政の組織と職務 第6回 教育行政の仕組み (2) 教育委員会制度の実際 第7回 教育行政の仕組み (3) 教育委員会制度の理念 第8回 現代教育改革と学校経営 (1) 学びからの逃避への対応 第9回 現代教育改革と学校経営 (2) 学校組織の再編 第10回 現代教育改革と学校経営 (3) PDCAサイクルと学校評価 第11回 これからの学校経営 (1) 開かれた学校づくり 第12回 これからの学校経営 (2) 格差社会における連携・協働 第13回 これからの学校経営 (3) 危機管理と学校安全 第14回 これからの学校経営 (4) 教師の専門性と研修 第15回 講義のまとめ		
評価方法 (合計100%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への参加態度 (主にワークシート) 30%</li> <li>・小テスト 20%</li> <li>・レポート 50%</li> </ul>		
失格条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を3分の1以上欠席した場合</li> <li>・私語など、他の学生の受講に妨げとなるような行為をした場合</li> </ul>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	【復習3時間】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で配布するプリントや資料を読み返すこと。小テストで理解度をはかります。</li> <li>・知識の定着をはかり、調べ学習をして、その結果をだしてもらうことがあります(ワークシートの提出)。</li> <li>・参考書なども読み、知識の使用を目指すこと。レポート作成につながります。</li> </ul> 【予習1時間】 事前に配布された資料を読むこと。テーマに関連して、情報収集に取り組んでみる。		
課題へのフィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストの解説を行う。</li> <li>・レポート提出後、コメントを個別に送ります。</li> </ul>		
教科書	授業時にプリント・資料を配布します。		
著者名			
出版社			
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解説教育六法編集委員会『解説教育六法』三省堂</li> <li>その他、授業時に適宜紹介します。</li> </ul>		
その他	授業計画および内容は、受講生の興味関心・知識・学習進度などにより変更する場合があります。		
備考			
科目生への開講	あり		

6-005

ナンバリング	TE201A03	期間	後期
授業科目名	学校の制度と経営		
英訳科目名	School System and Management		
担当教員名	弘田 みな子		
ディプロマ・ポリシー1	◎	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	教育法規や教育行政についての理解を深め、最近の教育問題や教育改革の動向の背景を学校制度・学校経営の視点から考察する。		
到達目標	教員免許状取得のための基礎知識として、学校経営や教育行政の基本を学ぶことを目的とする。教育行政の組織と機能および学校教育に必要な法令や制度の基本について理解し、教育行政や学校経営についての体系的な知識を獲得することを目指す。		
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回 教育制度への扉：学校とは、教員とは、公教育とは、教育行政とは</p> <p>第2回 教育制度の基本原則①：法体系と教育関係法規の概要、憲法・教育基本法制</p> <p>第3回 教育制度の基本原則②：教育基本法—我が国の教育の理念と教育の基本方針—</p> <p>第4回 教育制度の基本原則③：学校の管理・運営</p> <p>第5回 教育制度の基本原則④：教育行政の仕組み—教育行政組織と職務権限—</p> <p>第6回 教育制度の基本原則⑤：義務教育とは</p> <p>第7回 教育制度の基本原則⑥：教育財政</p> <p>第8回 学校経営①：開かれた学校づくり—学校評議員制度、コミュニティスクール—</p> <p>第9回 学校経営②：学校運営サイクルと学校評価</p> <p>第10回 学校経営③：学校における保健管理と安全管理</p> <p>第11回 学校経営④：学校をめぐる諸問題とチーム学校</p> <p>第12回 児童生徒に関する制度①：児童生徒の実態と課題、校則と懲戒</p> <p>第13回 児童生徒に関する制度②：児童生徒のニーズと教育制度</p> <p>第14回 児童生徒に関する制度③：子どもの福祉・保護と学校</p> <p>第15回 21世紀の教育に向けて：日本および諸外国の教育改革とその理念</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 30% 小レポート 20% 学期末レポート 50%		
失格条件	なし		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業で配布するプリントや資料を復習すること及び、紹介する参考文献を積極的に読んでみること。 (復習 1時間、予習3時間)		
課題へのフィード バック	毎授業ごとに授業テーマに沿った小レポートを課す。この課題についてのフィードバックは、次回授業の授業内でを行い、授業に反映・活用していく。		
教科書	授業にてプリントを配布します。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	あり		



ナンバリング		期間	前期
授業科目名	学校の制度と経営（幼・小）		
英訳科目名	School System and Management(kinder & elementary)		
担当教員名	弘田 みな子		
ディプロマ・ポリシー1	<知識・理解> ◎	ディプロマ・ポリシー2	<技能> ○
ディプロマ・ポリシー3	<思考力・判断力・表現力> ◎	ディプロマ・ポリシー4	<関心・意欲・態度> ◎
ディプロマ・ポリシー5	<関心・意欲・態度> ○	ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	教育法規や教育行政についての理解を深め、最近の教育問題や教育改革の動向の背景を学校制度・学校経営の視点から考察する。		
到達目標	教員免許状取得のための基礎知識として、学校経営や教育行政の基本を学ぶことを目的とする。教育行政の組織と機能および学校教育に必要な法令や制度の基本について理解し、教育行政や学校経営についての体系的な知識を獲得することを目指す。		
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回 教育制度への扉：学校とは、教員とは、公教育とは、教育行政とは</p> <p>第2回 教育制度の基本原則①：法体系と教育関係法規の概要、憲法・教育基本法制</p> <p>第3回 教育制度の基本原則②：教育基本法—我が国の教育の理念と教育の基本方針—</p> <p>第4回 教育制度の基本原則③：学校の管理・運営</p> <p>第5回 教育制度の基本原則④：教育行政の仕組み—教育行政組織と職務権限—</p> <p>第6回 教育制度の基本原則⑤：義務教育とは</p> <p>第7回 教育制度の基本原則⑥：教育財政</p> <p>第8回 学校経営①：開かれた学校づくり—学校評議員制度、コミュニティスクール—</p> <p>第9回 学校経営②：学校運営サイクルと学校評価</p> <p>第10回 学校経営③：学校における保健管理と安全管理</p> <p>第11回 学校経営④：学校をめぐる諸問題とチーム学校</p> <p>第12回 児童生徒に関する制度①：児童生徒の実態と課題、校則と懲戒</p> <p>第13回 児童生徒に関する制度②：児童生徒のニーズと教育制度</p> <p>第14回 児童生徒に関する制度③：子どもの福祉・保護と学校</p> <p>第15回 21世紀の教育に向けて：日本および諸外国の教育改革とその理念</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度 30% 小レポート 20% 学期末レポート 50%		
失格条件	なし		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業で配布するプリントや資料を復習すること及び、紹介する参考文献を積極的に読んでみること。 (復習 1時間、予習 3時間)		
課題へのフィード バック	毎授業ごとに、授業テーマに沿った小レポートを課す。この課題に対するフィードバックは、次回の授業内で取り上げ、授業に反映・活用していく。		
教科書	授業にてプリントを配布します。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

6-007

ナンバリング	TE201A04	期間	前期/後期
授業科目名	特別支援教育		
英訳科目名	Education for Children with Special Needs		
担当教員名	坂井 美恵子		
ディプロマ・ポリシー1	◎	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする生徒たちの学習上又は生活上の困難を理解し、ひとりひとりの教育的ニーズを把握して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を考える。また、母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある生徒の現状と、支援の方法についても考えていく。		
到達目標	①障害に関する基本的知識を習得する。 ②特別支援教育に関する歴史と現状、制度の理念と仕組みについて理解する。 ③障害の特性に応じた教育や支援の方法について理解する。 ④障害はないが、日本語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある生徒の現状と、支援の方法について理解する。		
授業計画	第1回 授業のガイダンス、学校の現状 第2回 ICF（国際生活機能分類）の理解と活用 第3回 日本における子どもの貧困の現状 第4回 貧困に直面する子どもへの教育支援 第5回 外国にルーツを持つ子どもの現状と言語に関する問題 第6回 外国にルーツを持つ子どもへの教育支援 第7回 障害のある子ども（1）見え方に困難がある子ども 第8回 障害のある子ども（2）分かることに困難がある子ども 第9回 特別支援学校の教育（自立活動・通級指導教室） 第10回 特別支援教育の実際（1）合科領域の指導 第11回 特別支援教育の実際（2）バリアフリー・ユニバーサルデザイン 第12回 特別支援教育の実際（3）障害の理解・コミュニケーション 第13回 教育・医療・福祉・行政の連携 第14回 保護者への理解 第15回 学習内容の振り返りとまとめ 定期試験は実施しない。		
評価方法 (合計100%)	授業ごと的小レポート 60% グループ作業の成果など 30% 期末レポート 10%		
失格条件	①最終レポートを提出しなかった場合 ②出席が授業回数の2/3を満たさない場合（20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする） ③私語など、他の学生の受講に著しい妨げのある行為をした場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	事前学修・グループワーク・提出が必須です。 事前学修（2時間）の内容を踏まえた授業を行うので、基本的に事前学修がなされていないと授業が分からなくなることがあります。事前学修の内容は、「予習シート」に記載して提出してもらいます。 グループワークを多く取り入れるので、主体的に取り組んでほしい。		
課題へのフィード バック	事前学修における疑問点などは、個別に解説し、授業計画に従って全体にも解説します。 最終レポート提出後、授業全体の講評を行います。		
教科書	『特別のニーズのある子どもの教育』2018年		
著者名	中瀬浩一・井上智義		
出版社	樹林房		
参考書	中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領		
その他	必要に応じてプリントを配布する。		
備考			
科目生への開講	あり		



ナンバリング	TE201D01	期間	前期
授業科目名	教育課程の意義と編成		
英訳科目名	The Meaning and Formation of Educational Curriculum		
担当教員名	奥野 浩之		
ディプロマ・ポリシー1	◎	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>学校の教育活動は、あらかじめ計画された教育課程に基づいてすすめられる。その教育課程は児童・生徒にとっての必要性和社会的必要性の二側面から吟味されなければならない。それは、人間教育という点において普遍的な側面を持つ一方、教育に対する時々の時代の期待や要請によって影響を受けるということである。</p> <p>講義では、教育課程の原理や思想について考察するとともに、我が国の学校教育課程を規定している学習指導要領の構成を、教科課程と教科外課程（総合的な学習の時間など）に分けて論じ、学習指導要領全体に対する理解と具体的な実践さらにはその変遷を通して、教育課程の持つ問題点やあるべき姿を探っていきたい。また、教師に期待される教育課程編成・改善の基本的能力を身につけ、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義について考えてみたい。</p> <p>講義形式が中心となるが、グループでの作業をできるだけ取り入れることで、授業への積極的な参加を期待する。</p>		
到達目標	<p>①教育課程の基本概念及び編成方法、課題等について基本的事項が具体的に説明できる。</p> <p>②学習指導要領の歴史及び各学習指導要領の特徴、構造、内容の要点を挙げることができる。</p> <p>③カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方について述べることができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 序論：教育課程とは</p> <p>第2回 教育課程の意義</p> <p>第3回 教育課程と法規</p> <p>第4回 学習指導要領の役割と変遷 (1) 経験主義の教育課程</p> <p>第5回 学習指導要領の役割と変遷 (2) 系統主義の教育課程</p> <p>第6回 学習指導要領の役割と変遷 (3) 新しい学力観に基づく教育課程</p> <p>第7回 学習指導要領の役割と変遷 (4) 確かな学力観に基づく教育課程</p> <p>第8回 学習指導要領の役割と変遷 (5) 社会に開かれた教育課程</p> <p>第9回 教育課程編成の基本原則</p> <p>第10回 総合的な学習の時間と教育課程</p> <p>第11回 教育課程編成演習 (1) 単元計画の構想</p> <p>第12回 教育課程編成演習 (2) 単元計画の作成</p> <p>第13回 編成した教育課程の検討 (単元計画の改善)</p> <p>第14回 カリキュラム・マネジメント</p> <p>第15回 まとめ：これからのカリキュラムに向けて</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加状況 30%</p> <p>中間レポート 30%</p> <p>期末試験 40%</p>		
失格条件	<p>試験を受験しなかった場合</p> <p>出席が授業回数の2/3を満たさない場合 (20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とする)</p> <p>私語など、他の学生の受講に妨げのある行為をした場合</p>		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で出す予習課題に取り組み各回の授業に臨むこと。</li> <li>・各回配布したプリントはファイリングし、次の授業までに前回の復習をしておくこと。</li> <li>・日頃より教育実践に関する単行本や実践記録を図書館や書店で探し、読んでおくこと。</li> <li>・次の授業までに、予習1時間、復習3時間を目標として学習に取り組むこと。</li> </ul>		
課題へのフィードバック	<p>課題に対する評価規準を明確に示すとともに、提出課題の講評を行う。</p>		
教科書	<p>『新版 教育課程論のフロンティア』 『中学校学習指導要領解説 総則編』</p>		
著者名	大津尚志、伊藤良高 編 文部科学省		
出版社	晃洋書房 東山書房		
参考書	<p>文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総則編』以下よりダウンロード <a href="http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/07/13/1407073_01.pdf">http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/07/13/1407073_01.pdf</a></p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領』(東山書房、2018年)</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領』以下よりダウンロード <a href="http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/07/11/1384661_6_1_2.pdf">http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/07/11/1384661_6_1_2.pdf</a></p>		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

6-009

ナンバリング	TE302B01	期間	前期/後期
授業科目名	教育の方法と技術		
英訳科目名	Educational Methods and Skills		
担当教員名	沼田 潤		
ディプロマ・ポリシー1	◎	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	教育目標の達成のためには、適切な教育方法・技術が不可欠である。本講義では、学習指導理論、教育評価論等の観点から、学習意欲・動機付けやメタ認知、記憶の構造と機能等、教育方法・技術に関する幅広い理論を取り上げ、今後の社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育む教育方法・技術に関する理解を深めることを目的とする。なお、学校教員としての教育実践に必要な情報機器や多様な教育メディアの効果的な活用能力の獲得という点を考慮しつつ授業を展開する。講義に加えて、講義内容に関するグループワークを取り入れるので、授業への積極的な参加を期待する。		
到達目標	①教育方法・技術に関する理論と具体的な教育方法・技術を理解することができる。 ②教育目標の実現に適した授業を設計し、実践できるようになる。 ③情報機器や多様な教育メディアを活用した授業を設計し、実践できるようになる。 ④教育現場の実態に即した教育方法に関する適切な判断ができるようになる。		
授業計画	第1回 序論：なぜ教育方法を学ぶのか 第2回 教育方法の歴史 第3回 学びに向かう力を高める教育方法：学習意欲・動機付けの観点から 第4回 思考力・判断力・表現力を育成する教育方法：メタ認知の観点から 第5回 知識・技能の習得を促す教育方法：記憶の構造と機能の観点から 第6回 学習環境と学習形態 第7回 多様な教育評価 第8回 情報活用能力（情報モラルを含む）を育成する指導法 第9回 教材の作成と活用（1）情報機器を活用した教材作成 第10回 教材の作成と活用（2）多様な教育メディアを活用した教材作成 第11回 青年期の特徴（1）アイデンティティの確立 第12回 青年期の特徴（2）青年期にふさわしい教育方法 第13回 授業の設計（1）情報機器を活用した授業設計 第14回 授業の設計（2）多様な教育メディアを活用した授業設計 第15回 これからの教育方法：主体的・対話的で深い学びの実現に向けて		
評価方法 (合計100%)	期末試験 35% 課題レポート 40% 小テスト 15% 授業内容に関する毎授業後の小レポート 10%		
失格条件	①試験を受験しなかった場合 ②出席が授業回数の2/3を満たさない場合（20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で一回の欠席とする） ③私語など、他の学生の受講に妨げのある行為をした場合		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	・6回目と11回目の授業に小テストを行うので、授業内容についての復習を十分な時間をかけて取り組むこと（毎週2時間）。 ・5、9、12回目終了時に課題を課すので、それらの課題を作成し締切までに提出すること（毎週2時間）。		
課題へのフィードバック	ルーブリック評価シートと課題へのコメントでフィードバックを行う。		
教科書	特定の教科書は用いず、必要に応じてプリント等を配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領		
その他	本講義において、講義の聴講に加えて、講義内容に関するグループワークをすることが求められる。また、受講者の関心と理解度に応じて計画を一部変更することがある。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	TE302B02	期間	前期
授業科目名	道徳教育論		
英訳科目名	Moral Education		
担当教員名	倉本 香		
ディプロマ・ポリシー-1	◎	ディプロマ・ポリシー-2	
ディプロマ・ポリシー-3		ディプロマ・ポリシー-4	
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<p>現在、道徳教育の重要性が強く意識されはじめています。けれども実践においては次のような様々な問題があります。道徳的判断力、心情、意欲や態度を育成するとはどのようなことをいうのだろうか。そしてその方法にはどのようなものがあるのだろうか。また、「生きる力」との関係はどのように捉えたらいいのだろうか。さらに、道徳科の授業と、教育活動全体を通しての道徳性の育成とを、どのような観点から捉えればいいのか。この問題には完全な「正解」はないが、本講義を通して受講生の皆さんは、これらの問題について「知る」「意識する」ということができるようになってほしい。</p> <p>本講義は2つの柱で構成されている。第1に、道徳教育に関する基本的な理解を目指すことである。道徳教育の目的や位置づけ、指導の観点を学習指導要領などに基づいて解説し、道徳教育に関する基礎的諸概念を理解する。第2に、学校教育現場で行われている道徳教育の指導方法について実践を交えて紹介し、具体的な授業計画や授業実践に取り組む。指導案と指導計画をもとに実際に受講生の皆さんに実践してもらい、道徳の時間の指導方法を理解し、実践力と応用力をつけてもらいたい。模擬授業を実施するので積極的に受講して欲しい。</p>		
到達目標	<p>道徳教育の目的および基礎的諸概念を理解する。 道徳教育の指導方法が理解でき、実践力を身につける。 教育に関するより深い知見を持つことができるようになる。</p>		
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 道徳教育の目的 学習指導要領 総則 解説 第2回 指導計画の方針 学習指導要領 道徳科 解説 まとめ 第3回 道徳教育の指導計画と実践例 モラルジレンマ教材の検討①解説 第4回 道徳教育の指導計画と実践例 モラルジレンマ教材の検討②実践 第5回 道徳教育の指導計画と実践例 重点項目をたてる指導計画「内容項目 責任」 第6回 道徳教育の指導計画と実践例 重点項目をたてる指導計画「内容項目 努力」 第7回 道徳教育の指導計画と実践例 重点項目をたてる指導計画「内容項目 人間関係」 第8回 道徳教育の指導計画と実践例 重点項目をたてる指導計画「内容項目 責任」 第9回 道徳教育の指導計画と実践例 ピアサポート教材の検討 第10回 道徳教育の指導計画と実践例 重点項目をたてる指導計画「内容項目 信頼」 第11回 道徳教育の指導案作成 ねらい・指導観・教材観、指導上の留意点 第12回 道徳教育の指導案作成 本時の展開 第13回 模擬授業 道徳科授業の具体的な指導方法 第14回 模擬授業と講評 第15回 到達度の確認</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>最終レポート 50% 授業中に課すグループレポート 50% 模擬授業への取り組みは加点する。</p> <p>出席は前提とする。 レポートは指示に従っていない場合など、質も評価するので提出したらそれでいいとは思わないこと。</p>		
失格条件	<p>①最終レポート未提出 ②グループレポート未提出が1/3以上ある ③すべてのレポートを提出していたとしてもその内容が指示に従って書けていない場合、字数不足の場合など、内容が不十分なものが1/3以上ある。</p> <p>上記の①から③のいずれか1つに当てはまる場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>学習指導要領の理解 予習2時間 復習2時間 道徳科学習指導案の検索 予習4時間 指導案の作成 予習10時間 復習15時間 模擬授業の準備 予習12時間 最終レポート作成 復習15時間</p>		
課題へのフィードバック	<p>指導案作成については、授業中に個別にアドバイスを与える。 模擬授業は、全体の前で講評を行い、指導する。 学習指導要領についてのレポートは添削して返却する。</p>		
教科書	『倫理のノート』		
著者名	倉本香、沼田千恵他著		
出版社	萌書房		
参考書			
その他	公欠であっても欠席した日の課題は後から提出できるものについては後日きちんと提出すること。 教職を志す者としての意識を持ってまじめに取り組んでほしい。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	前期/後期
授業科目名	特別活動論		
英訳科目名	Theories of Extracurricular Activities		
担当教員名	天野 義美		
ディプロマ・ポリシー1	◎	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>[授業題目] よりよい生活・人間関係を築く態度を育む特別活動</p> <p>[授業概要] 「人間形成の重要な部分を特別活動が担う」という視点から、特別活動の特質や意義、活動内容、指導方法などについて考察する。一方的な講義に終始するのではなく、話し合いや担当者自身の教育実践の紹介を織り交ぜながら、特別活動の大切さを共に追究していく。</p> <p>[授業構成] 本授業では特別活動の理論と方法について、概論（第1回）→総論（第2～4回）→各論（第5～8回）→細論（第9～14回）→まとめ（第15回）で展開する。</p>		
到達目標	<p>学校教育現場では、所有する教員免許状の種別・教科の如何に関わらず特別活動の指導に取り組みなければならない。そこで、本講義では、特別活動の理論と方法を学ぶことによって、次の事項について修得することを目指す。</p> <p>①特別活動の目標・意義・内容を把握することができる。</p> <p>②教育の今日的課題解決に向けて、特別活動が果たすべき役割を理解することができる。</p> <p>③特別活動の効果的な指導方法や、実践方法について考察することができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 特別活動の概要 第2回 特別活動の特質 第3回 特別活動の変遷 第4回 特別活動の目標と内容 第5回 学級活動の目標と内容 第6回 生徒会活動の目標と内容 第7回 学校行事の目標と内容①（儀式的行事、文化的行事） 第8回 学校行事の目標と内容②（健康安全・体育的行事、旅行・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事） 第9回 特別活動と指導計画 第10回 特別活動と他の教育活動との関連 第11回 特別活動と学校・学年・学級経営 第12回 特別活動の指導実践 一学級活動の?学級や学校の生活づくりを中心にー 第13回 特別活動の評価 第14回 特別活動をめぐる諸問題 第15回 これからの学校教育と特別活動、講義のまとめ</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度・提出物・・・20% レポート・・・・・・・・・・・・・・・・・・80%</p>		
失格条件	<p>公欠を除く出席すべき授業回数（全授業回数から公欠数を減じた回数）の、3分の1を超えて欠席している者は評価対象外とする。 （正当な理由のない遅刻・中抜け・早退は、3回で欠席1回とみなす。）</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>・授業での配布資料の末尾に、その講義の「まとめ」欄を設けているので、授業の展開を振り返り「まとめ」の内容が定着できるように復習する。（2時間） ・毎回配布する資料の欄外に次時の学習課題を明示しているため、「学習指導要領解説 特別活動編」などを参考に予習する。（2時間）</p>		
課題へのフィードバック	<p>授業での課題については、提出後の次の授業冒頭で全体に向け説明する。 最終レポートについては、ポータルサイトを通じて全体にコメントする。</p>		
教科書	なし（講義の中で資料を配布する。）		
著者名			
出版社			
参考書	<p>「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編」 文部科学省（東山書房） 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 特別活動編」 文部科学省HP（3月刊行予定） 「やさしく学ぶ特別活動」 赤坂雅裕・佐藤光友編著（ミネルヴァ書房） 「学級・学校文化を創る特別活動 中学校編」 国立教育政策研究所（東京書籍）</p>		
その他	<p>「為すことによって学ぶ」という特別活動の指導原理に基づいて、講義中のグループワークや演習にも自主的・積極的に参加すること。 講義中のスマホ使用は厳禁とする。</p>		
備考			
科目生への開講	あり		



6-012

ナンバリング	TE302B04	期間	集中
授業科目名	生徒・進路指導論		
英訳科目名	Student Counseling and Career Guidance		
担当教員名	吉田 卓司		
ディプロマ・ポリシー1	◎	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>子どもと学校をめぐって、さまざまな問題が取りざたされている。極度の学力競争や教育統制のもと、いじめ・体罰・非行・不登校などなど、子どもたちはかつてない生きづらさをかかえている。</p> <p>そのような中で、本講義では、アクティブ・ラーニングの手法を活用しながら、子どもたちの願いと思いに応える指導とは何か、また、すこやかな成長と豊かな発達を支援する指導とは何か、また子どもたちの将来に大きな影響を与える進路指導がどうあるべきかについて、学生相互に学び合える機会としたい。</p> <p>また、あるべき生徒指導と進路指導について、考察を深めるために、ロールプレイ・グループ討議・ディベート・プレゼンテーションなどの学生主体の講義手法を活用する。</p>		
到達目標	<p>学校現場で、子どもたちと具体的にどのように関わっていくかを理解し、学校現場で起こっている事態に対処し、主体的、創造的に指導力を発揮できる実践的教育力の育成が目標である。</p>		
授業計画	<p>第1回 本講義の内容・講義形態について</p> <p>第2回 生徒指導と子どもの人権-生徒指導の意義と今日的課題</p> <p>第3回 体罰問題—教育における暴力の弊害と連鎖性</p> <p>第4回 いじめ問題の現状と問題解決の動向—いじめ防止対策法に関して</p> <p>第5回 いじめ問題への対応—ネットいじめを含む</p> <p>第6回 不登校への対応を考える</p> <p>第7回 生徒指導と児童生徒の成育歴・生活環境—虐待の早期発見</p> <p>第8回 子どもの犯罪・非行への対応</p> <p>第9回 校則違反と懲戒処分</p> <p>第10回 生徒指導関係領域に関する総括と問題演習</p> <p>第11回 キャリア教育の意義と今日的課題</p> <p>第12回 生徒指導・進路指導と授業づくり・学校づくり</p> <p>第13回 生徒指導・進路指導の計画と実践</p> <p>第14回 生徒指導・進路指導に関するプレゼンテーションの実践演習</p> <p>第15回 生徒指導・進路指導に関する講義の総括</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>ロールプレイ・グループワーク・プレゼンテーション等への参加態度（積極性）と講義時ミニレポートと問題演習に基づく平常点 50%</p> <p>期末試験 50%</p>		
失格条件	<p>正当な理由なく全講義回数の3分の1を越えて欠席した場合</p> <p>正当な理由なく考査を受験しなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>予習…授業前に学習範囲のテキストを読み、そこで取り上げる教育問題について考察する。レポートを科す場合は、事前に指示する。</p> <p>復習…アクティブ・ラーニング等によって、自分の考えと他の受講者との考えを比較し、グループ討議等を通じて、問題意識や課題解決手段について理解を深めたことなどをミニレポートにまとめて提出する。</p>		
課題へのフィードバック	<p>授業時の課題及びグループワークの成果物などについては、コメントを付して返却したり、総評を示してフィードバックを行う。</p>		
教科書	<p>「教育実践基礎論」</p> <p>「生徒指導堤要」</p>		
著者名	吉田卓司 文部科学省		
出版社	三学出版 教育図書		
参考書	<p>吉田卓司「生徒指導法の実践研究」三学出版（2008年）</p> <p>吉田卓司「教育方法原論」三学出版（2013年）</p> <p>その他随時紹介する。</p>		
その他	講義の進捗状況及び教育時事への言及等によって講義進度・内容の加除修正を行うことがある。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	TE302B05	期間	後期
授業科目名	生徒指導論		
英訳科目名	Student Counseling		
担当教員名	馬場 義伸		
ディプロマ・ポリシー1	◎	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	児童生徒の人格の健全な発達を図ることを目指して、生徒指導の手立てと方法について学ぶ。加えて、具体的な事例をもとに、問題行動の背景、自己肯定感と繋がり合う集団づくり、同僚や保護者、関係機関との連携などについて学ぶ。これらの学びを通して、「子ども観」を深め、自分の目指す教師像を具現化する。		
到達目標	<p>生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通して行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。同僚や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識や素養を身に付ける。そのために以下のことを目指す。</p> <p>①生徒指導の位置づけ、各教科や教科外活動における生徒指導の意義や重要性を理解できる。  ②集団指導・個別指導の方法や生徒指導・教育相談体制について理解できる。  ③学校ぐるみの組織的な生徒指導の取組みを理解できる。  ④日々の生徒指導の在り方と児童生徒の自己肯定感が育つ具体的な方法を理解できる。  ⑤生徒指導に関する主な法令の内容といじめ・不登校・虐待等への対応の在り方を理解できる。</p>		
授業計画	第1回 オリエンテーション：講義の概要、受講時の心得、評価の説明 第2回 教育課程における生徒指導の位置づけと教科・教科外活動における生徒指導の意義と重要性 第3回 生徒指導の土台となる信頼関係①生活習慣の確立や規範意識の醸成等の指導の在り方と生徒との信頼関係 第4回 生徒指導の土台となる信頼関係②信頼関係の構築と教師集団のチームワーク 第5回 問題行動の捉え方とその背景①「非行」「荒れ」の背景と生徒指導の在り方 第6回 問題行動の捉え方とその背景②「いじめ」の背景と生徒指導の在り方 第7回 問題行動の捉え方とその背景③「不登校」の背景と生徒指導の在り方 第8回 生徒同士の人間関係と生徒指導 第9回 「性」「薬物」「携帯」「情報・インターネット」と生徒指導との関連性 第10回 生徒が繋がるための手立て①「取り組みなしに発達はない」とことや、文化的活動が人間力を育むことについて 第11回 生徒が繋がるための手立て②「クレーム」問題と保護者の理解 第12回 子どもの「貧困問題」：貧困の現状と背景、その対応策 第13回 子どもに対する「虐待」：虐待の現状と背景、その対応策 第14回 子どもの「貧困問題」と「虐待」：教育集団（保護者と教師）における連携と関係機関との連携 第15回 まとめ：学生の不安や疑問に答えるとともに、目指す教師像のレポートを基に討論する		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度（参加状況）	40%	
	ミニレポート、コメントカード	30%	
	「手作り通信」（レポート）	30%	
失格条件	出席が授業回数の3分の2に満たない場合失格 3回の遅刻で1回の欠席に換算		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	講義テーマを自分自身の学校生活での体験に引き寄せて、問題意識をもって講義に参加する。 ニュースに関心を持ち、新聞やインターネットの情報を講義に持ち込み、紹介する。毎回交代で教育や子どもの問題についての「問題意識」をミニレポートにまとめて、発表・交流する。（2時間） コメントカードや講義のまとめの掲載された「講義通信」をファイルしておく。 講義の中や「講義通信」で「参考文献」を紹介するので、興味のある問題を探究しておく。（2時間）		
課題へのフィードバック	①授業のコメントカードをプリントして、次回の授業の最初に読みあい、全体で共有する。討論すべき課題があれば討論する。 ②課題提出後、授業で全体に向けてコメントしたり個別にコメントする。またレポートを印刷するなどして全体で討論もする。		
教科書	不使用		
著者名			
出版社			
参考書	学習指導要領 学習指導要領の解説		
その他			
備考	小学校教諭としての実務経験をもとに、この授業を進めます。		
科目生への開講	あり		

6-014

ナンバリング	TE302B06	期間	集中
授業科目名	教育相談		
英訳科目名	Educational Counseling		
担当教員名	吉田 卓司		
ディプロマ・ポリシー1	◎	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	本講義では、教育相談に関する基礎理論と具体的な対応策を講学する。取り上げる課題は、個別ケースの対処法から、学校・地域社会等のレベルの制度論・政策論まで、多元的である。本講義では、そのような内容理解と今日の子どもたちのおかれている状況を前提として、ロールプレイなどのアクティブラーニングを取り入れて、教育相談の模擬実践を行い、児童生徒の発達状況や環境等を的確にアセスメントする能力と教育相談の対応力を養成する。		
到達目標	本講義の目的は、教員として、教育相談に必要な知識、技能などの修得である。単なる知識やスキルの理解にとどまらず、可能な限りアクティブな学修手法を用いながら、教育相談（カウンセリング）における実践的な教育力を育成することを目標とする。		
授業計画	第1回 教育相談とは何かー教育相談の意義 第2回 教育相談（カウンセリング）の基礎理論 第3回 教育相談の方法原理 第4回 教育相談の具体的方法ー個別・集団面接等の手法 第5回 教育相談の具体的方法ー課題のある児童生徒の理解とソーシャルワーク 第6回 教育相談の具体的方法ーカウンセリングマインドと多角的・総合的支援 第7回 教育相談の進め方ー受容・共感の姿勢・共感的理解と姿勢 第8回 教育相談の進め方ーカウンセラー・ソーシャルワーカー等との協働 第9回 教育相談計画と学校組織ーチーム学校と保護者対応 第10回 個別課題に向き合う教育相談の展開ーいじめ 第11回 個別課題に向き合う教育相談の展開ー不登校 第12回 個別課題に向き合う教育相談の展開ー虐待 第13回 個別課題に向き合う教育相談の展開ー自殺防止 第14回 教育相談とチーム学校ー地域・関係機関(医療・福祉・心理等)との連携 第15回 講義の振り返りと総括		
評価方法 (合計100%)	講義時作成レポート(20%)・アクティブラーニングの主体的参加態度(15%)・予復習課題 (15%) 上記平常点合計50% 期末試験50%		
失格条件	正当な理由なく全講義回数数の3分の1をこえて欠席した場合 正当な理由なく考査を受験しなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	本時の講義内容について、講義前の予習として、テキストの該当部分を読了しておくこと。また、講義後の復習として、講義内容の振り返りと総括を各自のノート及び配布・返却されたプリント等に記しておくこと。		
課題へのフィード バック	授業時の課題及びグループワークの成果物などについては、コメントを付して返却したり、総評を示してフィードバックを行う。		
教科書	子ども虐待と向きあうー兵庫・大阪の教育福祉の現場からー 生徒指導提要(平成22年)		
著者名	兵庫民主教育研究所子どもの人権委員会 文部科学省		
出版社	三学出版 教育図書		
参考書	吉田卓司「教育実践基礎論」三学出版（2017年） その他随時紹介する。		
その他	講義の進捗状況及び教育時事への言及等によって講義進度・内容の加除修正を行うことがある。		
備考			
科目生への開講	あり		

6-015

ナンバリング	TE501B01	期間	後期
授業科目名	教育史		
英訳科目名	History of Education		
担当教員名	長谷川 精一		
ディプロマ・ポリシー1	◎	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	近代学校制度成立以降の日本の教育がどのように展開されてきたのかを教育制度の成立と定着、教育に関する思想的な変化の両面から検討することを通じて、現在の教育に対する視野を広げていくことを目的とする。時代や社会によって、教育の理念、求められる人間像、子ども観がどのように異なるのか、それはどのような思想的背景をもつものなのかを考察することを通じて、歴史的視点から現在の教育と社会を相対化するための洞察力を養っていく。		
到達目標	教育の制度と教育に関する思想について、歴史的視点から考察し、教育の理念と実践に関して、時代・社会によって何が変化してきたのか、時代・社会を超えて共通するものは何か、を理解することを目標とする。		
授業計画	第1回 授業の概要と導入 第2回 教育史を学ぶ意味 第3回 日本における近代化の始動と教育 第4回 国民国家の創出と「臣民」養成 第5回 教育史における個人と社会の相互関係：森有礼の場合 第6回 「教育勅語」のもたらしたもの 第7回 第二次世界大戦時下の教育 第8回 ここまでの授業に関する内容理解の確認 第9回 敗戦後の社会と教育 第10回 戦後教育改革の動向 第11回 社会の現代的変容と現在の教育問題 第12回 教科書の変遷と求められる人間像の変化 第13回 個人史と社会史の関係：家庭・学校：地域と教育 第14回 個人史と社会史の関係：メディア環境と教育 第15回 授業のまとめと内容理解の確認		
評価方法 (合計100%)	平常点：100%（受講状況、課題レポート、グループワーク、発表などへの参加の積極性等を総合して行なう）		
失格条件	授業中に課したすべてのレポートを期限内に提出しなかった場合 担当日時の決定した発表等を正当な理由なく行なわなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業中に、その回の授業の内容に基づいて、また、次回の授業の準備として、各自自宅で書くようにと指定した課題レポート、あるいは、読むようにと指定した参考文献に関しては十分な時間（大学設置基準の定めによれば、1回の授業に対して4時間（大学の1時間は45分として考えることとなっているため、180分）以上）をかけて取り組むこと。		
課題へのフィードバック	授業で課題へのフィードバックを行う。		
教科書	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他			
備考			
科目生への開講	あり		



ナンバリング		期間	後期
授業科目名	障害児教育		
英訳科目名	Education for Handicapped Students		
担当教員名	阿部 優里		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	障害をともなって生きる子ども達の教育事情について学びます。生まれながらに障害を抱えて生きる子ども、幼稚園で発達支援の必要性に気づいて療育を受け始める子ども、学校に入学して初めて特別支援のニーズが生じる子ども等々、「障がい児」「障害児教育」といっても十人十色。多様な事例に触れることで、将来の実習・教育・療育・生活支援の現場で出会う人たちの背景や教育への理解が深まれば何よりです。		
到達目標	「障害児教育」の多様性を知る (幼保での「気になる」お子さん／療育園の発達支援／地域校の特別支援学級／各種特別支援学校など) 「障害児教育」を受ける本人のみならず、その選択にかかわる「家族の存在と思い」を知る 学校や社会全体での、障がい児(者)の「ものごとの理解」「生きやすさ」を助ける創意工夫を考える 学校卒業後の障がい児(者)の人生についても考える		
授業計画	第1回 オリエンテーション：各受講生の関心事項調べ／身体障害(復習) 第2回 幼保現場での障害を持った子ども／療育園に通う子ども／保護者の進路選択／自閉症(復習) 第3回 小学校期：特別支援学校・地域校の特別支援学級／学習障害・注意欠陥多動障害 第4回 小学校普通学級での「ニーズの高い子ども」とは 第5回 中学校期：思春期をむかえる子どもたち／知的障害(復習) 第6回 さまざまな特別支援教育の場(聴覚支援学校・視覚支援学校・病院内学級など) 第7回 特別支援学校高等科：生活訓練や職業訓練へ 第8回 学校を出た後の障がい者たち：作業所・デイサービス・入所生活など 第9回 大学進学をする障害を持った若者たちの事例 第10回 レポート指導①それぞれの興味関心に合ったテーマを選ぶ・テーマをしぼる 第11回 レポート指導②資料集め・資料整理など 第12回 レポート指導③引用・執筆など 第13回 レポート提出／復習 第14回 まとめのテスト／レポート発表など 第15回 見学実習など(予備日)		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度30% 課題への取組み30% 授業内テスト20% レポート20%		
失格条件	3分の1以上の欠席(遅刻3回=欠席1回／20分以上の遅刻=欠席) 授業内課題等への著しい不参加 レポートの不提出		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	配布資料を読む(予習1時間) 課題への取組み、および自らの興味関心に合った関連資料を探して読む(復習1時間) さらに可能な範囲で、施設見学・ボランティア活動などをおこない、障がい(者)とかかわる機会を持つこと		
課題へのフィードバック	1.コメント：授業内小レポートに書かれた感想や意見にはコメントをつけてお返しします。 2.レポート推敲：レポートは早目の初稿提出、その後ひとりずつ手直し・推敲の個別指導を経て仕上げる形を取っています。		
教科書	不使用(プリント使用)		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	授業計画および内容は受講生の興味関心・知識・学習進度などにより変更する場合があります		
備考			
科目生への開講	あり		

6-017

ナンバリング	TE501B02	期間	後期
授業科目名	異文化間教育論		
英訳科目名	Intercultural Education		
担当教員名	沼田 潤		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	多様な文化的背景をもつ他者との協働が今後ますます求められる時代において、多文化共生の実現に向けた教育の重要性が高まっている。本講義では、多様な文化的背景をもつ他者との共生を目指す異文化間教育に関して様々な観点から考察し、今後の社会を担う子どもたちにどのような資質・能力が求められていくのかを探っていききたい。講義に加えて、講義内容に関するグループワークや発表を取り入れるので、授業への積極的な参加を期待する。		
到達目標	①文化や共生に関する様々な課題が理解できる。 ②多文化共生の実現に向けてどのように行動するべきか説明できる。 ③学校教育における異文化理解の実践内容に関して批判的に考えることができる。		
授業計画	第1回 授業のガイダンス 第2回 文化とは何か 第3回 共生とは何か 第4回 文化と共生に関する諸問題 第5回 ステレオタイプと偏見、差別 第6回 異文化を理解するということ 第7回 異文化理解を目指した授業デザイン 第8回 カナダにおける多文化共生に関する課題 第9回 カナダにおける多文化共生に向けての教育 第10回 日本における多文化共生に関する課題 第11回 日本における多文化共生に向けての教育 第12回 異文化の問題に関する学生発表 (1) 第13回 異文化の問題に関する学生発表 (2) 第14回 異文化の問題に関する学生発表 (3) 第15回 まとめ		
評価方法 (合計100%)	期末レポート 30% 提出課題 40% 発表内容 30%		
失格条件	①期末レポートを提出しなかった場合 ②出席が授業回数の2/3を満たさない場合 (20分以上の遅刻は欠席とし、20分以内の遅刻は3回で1回の欠席とする) ③私語など、他の学生の受講に妨げのある行為をした場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業内容に基づいた、期末レポート・提出課題の作成と発表のための取り組みを、十分な時間 (大学設置基準の定めによれば、1回の授業に対して4時間 (大学の1時間は45分として考えることとなっているため、180分) 以上) をかけて取り組むこと。		
課題へのフィード バック	授業で課題へのフィードバックを行う。		
教科書	特定の教科書は用いず、必要に応じてプリント等を配布する。		
著者名			
出版社			
参考書	授業時に紹介する。		
その他	本講義において、講義の聴講に加えて、講義内容に関するグループワークをすることが求められる。また、受講者の関心と理解度、クラスサイズに応じて計画を一部変更することがある。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	音楽科教育法A		
英訳科目名	Teaching Method of Music A		
担当教員名	石井 尚子		
ディプロマ・ポリシー1	◎	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校・高等学校学習指導要領に基づき、音楽科の「目標」「指導内容とその構成」「学習のプロセスと指導方法」「評価」など音楽科の基礎理論について、具体的な学習場面を通して理解する。</li> <li>・学習指導案の意味について理解し、音楽科の基礎理論に基づいた学習指導案を作成する。</li> </ul>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽科の「目標」「指導内容とその構成」「学習のプロセスと指導方法」「評価」などの基礎理論について説明ができる。</li> <li>・学習指導案の意味について説明ができ、音楽科の基礎理論に基づいた学習指導案が書ける。</li> </ul>		
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回 学習指導要領の趣旨に基づく音楽科の意義を理解した上で、本授業の目標と進め方、テキストの扱い方、評価の方法などについて理解する。各受講者が授業における自身の目標を確認する。</p> <p>第2回 教科としての音楽科の意味について、生成の原理、表現の原理に基づいて考察し、社会の中の音楽との共通点、相違点を通して理解する。</p> <p>第3回 学習指導要領の意味と、教育基本法及び学校教育法との関係について理解する</p> <p>第4回 学習指導要領の内容の理解① 構成（目標、内容、内容の扱い）、（領域、分野）について理解する。</p> <p>第5回 学習指導要領の内容の理解② 目標の構造及び目標の中の文言についてグループ討議を通して、意味と目標の構造を理解する。</p> <p>第6回 学習指導要領の内容の理解③ 音楽の学習で用いる用語の意味について「指導と評価」の視点からグループ討議を通して理解する。</p> <p>第7回 実際の授業と関わらせた学習指導要領の内容の理解① 授業記録（表現領域）の映像を視聴し、第6回の授業までに学習した内容の理解を深める。</p> <p>第8回 実際の授業と関わらせた学習指導要領の内容及び学習指導案の理解② 授業記録（鑑賞領域）の映像を視聴し、第6回の授業までに学習した内容の理解を深める。</p> <p>第9回 第9回までのまとめ及び確認テスト 第9回までの学習内容が知識理解として習得されているか筆記試験で確認する。</p> <p>第10回 グループでの協働による指導案作り① これまでに習得した内容を活用し、授業構成についてグループ討議を通して構造的に理解する。</p> <p>第11回 グループでの協働による指導案作り② 学習指導案の構成について、学習の連続性を柱としてグループ討議を通して理解する。</p> <p>第12回 グループでの協働による指導案作り③ 教材に内包される学習内容について、「文化的背景」「音楽の仕組みと技能」「他媒体との関連」の視点からグループ討議を通して理解する。</p> <p>第13回 グループでの協働による指導案作り③ グループごとに、ICTの活用による指導方法なども視野に入れて学習指導案を作成する。</p> <p>第14回 グループでの協働による指導案作り④ 代表グループが作成した学習指導案を模擬授業で発表し、学習の連続性の視点から改善点を検討する。</p> <p>第15回 指導案作り①～④で学んだことから、各自で今後の課題について考察しレポートにまとめる。</p>		
評価方法 (合計100%)	確認テスト (40%) レポート (40%) 取り組み姿勢 (20%)		
失格条件	3回以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習 各自の模擬授業の題材について、十分教材研究をし学修しておく。（予習 3時間） 復習 他の学生の模擬授業を参観して、その授業における注意点・疑問点を各自ノートにまとめておく。（復習 1時間）		
課題へのフィードバック	作成した学習指導案、ワークシート等については、模擬授業の事前及び事後に協議による指導を行う。 確認テストについては、試験終了後に問題の出題意図の説明、理論と実践を関わらせた解説を行う。		
教科書	①『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説—音楽編』 ②『高等学校学習指導要領解説—芸術編』 ③『シリーズ・新時代の学びを創る 第6巻 音楽科 授業の理論と実践 生成の原理による授業の展開』2015年		
著者名	③小島律子編		
出版社	①文部科学省 ②文部科学省 ③あいり出版		
参考書	その都度指示		
その他	受講学生は幅広い音楽的知識と教職に対する自覚と熱意を要する。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	音楽科教育法A		
英訳科目名	Teaching Method of Music A		
担当教員名	田中 龍三		
ディプロマ・ポリシー1	◎	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校・高等学校学習指導要領に基づき、音楽科の「目標」「指導内容とその構成」「学習のプロセスと指導方法」「評価」など音楽科の基礎理論について、具体的な学習場面を通して理解する。</li> <li>・学習指導案の意味について理解し、音楽科の基礎理論に基づいた学習指導案を作成する。</li> </ul>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽科の「目標」「指導内容とその構成」「学習のプロセスと指導方法」「評価」などの基礎理論について説明ができる。</li> <li>・学習指導案の意味について説明ができ、音楽科の基礎理論に基づいた学習指導案が書ける。</li> </ul>		
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回 学習指導要領の趣旨に基づく音楽科の意義を理解した上で、本授業の目標と進め方、テキストの扱い方、評価の方法などについて理解する。各受講者が授業における自身の目標を確認する</p> <p>第2回 教科としての音楽科の意味について、生成の原理、表現の原理に基づいて考察し、社会の中の音楽との共通点、相違点を通して理解する</p> <p>第3回 学習指導要領の意味と、教育基本法及び学校教育法との関係について理解する</p> <p>第4回 学習指導要領の内容の理解① 構成（目標、内容、内容の扱い）、（領域、分野）について理解する</p> <p>第5回 学習指導要領の内容の理解② 目標の構造及び目標の中の文言についてグループ討議を通して、意味と目標の構造を理解する</p> <p>第6回 学習指導要領の内容の理解③ 音楽の学習で用いる用語の意味について「指導と評価」の視点からグループ討議を通して理解する</p> <p>第7回 実際の授業と関わらせた学習指導要領の内容の理解① 授業記録（表現領域）の映像を視聴し、第6回の授業までに学習した内容の理解を深める</p> <p>第8回 実際の授業と関わらせた学習指導要領の内容及び学習指導案の理解② 授業記録（鑑賞領域）の映像を視聴し、第6回の授業までに学習した内容の理解を深める</p> <p>第9回 第8回までのまとめ及び確認テスト 第8回までの学習内容が知識理解として習得されているか筆記試験で確認する</p> <p>第10回 グループでの協働による指導案作り① これまでに習得した内容を活用し、授業構成についてグループ討議を通して構造的に理解する</p> <p>第11回 グループでの協働による指導案作り② 学習指導案の構成について、学習の連続性を柱としてグループ討議を通して理解する</p> <p>第12回 グループでの協働による指導案作り③ 教材に内包される学習内容について、「文化的背景」「音楽の仕組みと技能」「他媒体との関連」の視点からグループ討議を通して理解する</p> <p>第13回 グループでの協働による指導案作り③ グループごとに、ICTの活用による指導方法なども視野に入れて学習指導案を作成する</p> <p>第14回 グループでの協働による指導案作り④ 代表グループが作成した学習指導案を模擬授業で発表し、学習の連続性の視点から改善点を検討する</p> <p>第15回 指導案作り①～④で学んだことから、各自で今後の課題について考察しレポートにまとめる</p>		
評価方法 (合計100%)	確認テスト (40%) レポート (40%) 取り組み姿勢 (20%)		
失格条件	3回以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習 各自の模擬授業の題材について、十分教材研究をし学修しておく。（予習 3時間） 復習 他の学生の模擬授業を参観して、その授業における注意点・疑問点を各自ノートにまとめておく。（復習 1時間）		
課題へのフィードバック	作成した学習指導案、ワークシート等については、模擬授業の事前及び事後に協議による指導を行う。 確認テストについては、試験終了後に問題の出題意図の説明、理論と実践を関わらせた解説を行う。		
教科書	①『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説—音楽編』 ②『高等学校学習指導要領解説—芸術編』 ③『シリーズ新時代の学びを創る第6巻 音楽科 授業の理論と実践 生成の原理による授業の展開』2015年		
著者名	③小島律子編		
出版社	①文部科学省 ②文部科学省 ③あいり出版		
参考書	その都度指示		
その他	受講学生は幅広い音楽的知識と教職に対する自覚と熱意を要する。		
備考			
科目生への開講	あり		



ナンバリング		期間	後期
授業科目名	音楽科教育法B		
英訳科目名	Teaching Method of Music B		
担当教員名	石井 尚子		
ディプロマ・ポリシー1	◎	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校・高等学校学習指導要領及び生成の原理に基づき、音楽科の「目標」「指導内容とその構成」「学習のプロセスと指導方法」「評価」などの基礎理論と授業構成の関係について理解する。</li> <li>・音楽科の基礎理論に基づいた学習指導案を作成し、実践的に模擬授業を行い教育実習に備える。</li> </ul>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽科の「目標」「指導内容とその構成」「学習のプロセスと指導方法」「評価」などの基礎理論と授業構成の関係について説明ができる。</li> <li>・音楽科の基礎理論に基づいた学習指導案が書け、実践的に模擬授業が行える。</li> </ul>		
授業計画	<p>第1回 学習指導要領の趣旨に基づく音楽科の意義を理解した上で、本授業の目標と進め方、テキストの扱い方、評価の方法などについて理解する。各受講者が授業における自身の目標を確認する。</p> <p>第2回 生成の原理に基づいた音楽の授業で用いる用語の意味の理解① 「知覚・感受」「表現」と「表出」、「技術」と「技能」、「身体表現」と「身体反応」</p> <p>第3回 生成の原理に基づいた音楽の授業で用いる用語の意味の理解② 「鑑賞」と「観賞」、「感想」と「批評」、「聴き比べ」と「比較聴取」</p> <p>第4回 生成の原理に基づいた音楽の授業で用いる用語の意味の理解③ 「拍」、「拍子」、「リズム」、「指揮的表現」と「指揮」、「題材」と「単元」</p> <p>第5回 音楽科に於ける評価の観点と資質・能力との関係を、グループ討議を通して理解する。</p> <p>第6回 第5回までのまとめ及び確認テスト 第5回までの学習内容が知識理解として習得されているか筆記試験で確認する。</p> <p>第7回 グループでの協働による模擬授業作り① 授業構想チェックシートを作成し学習の連続性を確認する。</p> <p>第8回 グループでの協働による模擬授業作り② チェックシートに基づき学習指導案、ワークシートを作成する。</p> <p>第9回 グループでの協働による模擬授業作り③ 作成した学習指導案の学習内容及び学習方法、ワークシートを生徒の立場に立って確認する。</p> <p>第10回 グループでの協働による模擬授業作り④ 各グループが、作成した学習指導案、ワークシートを発表し、全員で検討する。</p> <p>第11回 グループでの協働による模擬授業作り⑤ 検討を加えた学習指導案に基づいて、ICTの活用も含めて模擬授業の準備をする。</p> <p>第12回 グループでの協働による模擬授業作り⑥ 第1グループが模擬授業を行い、全員で授業の目的との整合性について協議する。</p> <p>第13回 グループでの協働による模擬授業作り⑦ 第2グループが模擬授業を行い、全員で授業の目的との整合性について協議する。</p> <p>第14回 グループでの協働による模擬授業作り⑧ 第3グループが模擬授業を行い、全員で授業の目的との整合性について協議する。</p> <p>第15回 模擬授業作り①～⑧で学んだことから、各自が自分のグループで行った模擬授業の改善点について考察しレポートにまとめる。</p>		
評価方法 (合計100%)	確認テスト (40%) レポート (40%) 取り組み姿勢 (20%)		
失格条件	3回以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習 各自の模擬授業の題材について、十分教材研究をし学修しておく。(予習 3時間) 復習 他の学生の模擬授業を参観して、その授業における注意点・疑問点を各自ノートにまとめておく。(復習 1時間)		
課題へのフィードバック	作成した学習指導案、ワークシート等については、模擬授業の事前及び事後に協議による指導を行う。 確認テストについては、試験終了後に問題の出題意図の説明、理論と実践を関わらせた解説を行う。		
教科書	①『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説—音楽編』 ②『高等学校学習指導要領解説—芸術編』 ③『シリーズ・新時代の学びを創る 第6巻 音楽科 授業の理論と実践 生成の原理による授業の展開』2015年		
著者名	③小島律子編		
出版社	①文部科学省 ②文部科学省 ③あいり出版		
参考書	その都度指示		
その他	受講学生は幅広い音楽的知識と教職に対する自覚と熱意を要する。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	期間	後期
授業科目名	音楽科教育法B	
英訳科目名	Teaching Method of Music B	
担当教員名	田中 龍三	
ディプロマ・ポリシー1	◎	ディプロマ・ポリシー2
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6
授業概要・ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校・高等学校学習指導要領及び生成の原理に基づき、音楽科の「目標」「指導内容とその構成」「学習のプロセスと指導方法」「評価」などの基礎理論と授業構成の関係について理解する。</li> <li>・音楽科の基礎理論に基づいた学習指導案を作成し、実践的に模擬授業を行い教育実習に備える。</li> </ul>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽科の「目標」「指導内容とその構成」「学習のプロセスと指導方法」「評価」などの基礎理論と授業構成の関係について説明ができる。</li> <li>・音楽科の基礎理論に基づいた学習指導案が書け、実践的に模擬授業が行える。</li> </ul>	
授業計画	<p>第1回 学習指導要領の趣旨に基づく音楽科の意義を理解した上で、本授業の目標と進め方、テキストの扱い方、評価の方法などについて理解する。各受講者が授業における自身の目標を確認する</p> <p>第2回 生成の原理に基づいた音楽の授業で用いる用語の意味の理解① 「知覚・感受」「表現」と「表出」、「技術」と「技能」、「身体表現」と「身体反応」</p> <p>第3回 生成の原理に基づいた音楽の授業で用いる用語の意味の理解② 「鑑賞」と「観賞」、「感想」と「批評」、「聴き比べ」と「比較聴取」</p> <p>第4回 生成の原理に基づいた音楽の授業で用いる用語の意味の理解③ 「拍」、「拍子」、「リズム」、「指揮的表現」と「指揮」、「題材」と「単元」</p> <p>第5回 音楽科に於ける評価の観点と資質・能力との関係を、グループ討議を通して理解する</p> <p>第6回 第5回までのまとめ及び確認テスト 第5回までの学習内容が知識理解として習得されているか筆記試験で確認する</p> <p>第7回 グループでの協働による模擬授業作り① 授業構想チェックシートを作成し学習の連続性を確認する</p> <p>第8回 グループでの協働による模擬授業作り② チェックシートに基づき学習指導案、ワークシートを作成する</p> <p>第9回 グループでの協働による模擬授業作り③ 作成した学習指導案の学習内容及び学習方法、ワークシートを生徒の立場に立って確認する</p> <p>第10回 グループでの協働による模擬授業作り④ 各グループが、作成した学習指導案、ワークシートを発表し、全員で検討する</p> <p>第11回 グループでの協働による模擬授業作り⑤ 検討を加えた学習指導案に基づいて、ICTの活用も含めて模擬授業の準備をする</p> <p>第12回 グループでの協働による模擬授業作り⑥ 第1グループが模擬授業を行い、全員で授業の目的との整合性について協議する</p> <p>第13回 グループでの協働による模擬授業作り⑦ 第2グループが模擬授業を行い、全員で授業の目的との整合性について協議する</p> <p>第14回 グループでの協働による模擬授業作り⑧ 第3グループが模擬授業を行い、全員で授業の目的との整合性について協議する</p> <p>第15回 模擬授業作り①～⑧で学んだことから、各自が自分のグループで行った模擬授業の改善点について考察しレポートにまとめる。</p>	
評価方法 (合計100%)	確認テスト (40%) レポート (40%) 取り組み姿勢 (20%)	
失格条件	3回以上の欠席	
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習 各自の模擬授業の題材について、十分教材研究をし学修しておく。(予習 3時間) 復習 他の学生の模擬授業を参観して、その授業における注意点・疑問点を各自ノートにまとめておく。(復習 1時間)	
課題へのフィードバック	作成した学習指導案、ワークシート等については、模擬授業の事前及び事後に協議による指導を行う。 確認テストについては、試験終了後に問題の出題意図の説明、理論と実践を関わらせた解説を行う。	
教科書	①『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説—音楽編』 ②『高等学校学習指導要領解説—芸術編』 ③『シリーズ・新時代の学びを創る 第6巻 音楽科 授業の理論と実践 生成の原理による授業の展開』2015年	
著者名	③小島律子編	
出版社	①文部科学省 ②文部科学省 ③あいり出版	
参考書	その都度指示	
その他	受講学生は幅広い音楽的知識と教職に対する自覚と熱意を要する。	
備考		
科目生への開講	あり	

ナンバリング	TE102B03	期間	前期
授業科目名	音楽科教育法C		
英訳科目名	Teaching Methods for Music C		
担当教員名	石井 尚子		
ディプロマ・ポリシー1	◎	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽科における教材研究の目的と意味、視点と方法を理解して教材研究を行う。</li> <li>・教材研究の結果を踏まえた学習指導案を作成及び模擬授業の実践を通して教材の扱い方について省察し、自身の課題を得る。</li> </ul>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領及び生成の原理に基づく、音楽科の基礎理論を根拠とした教材分析ができる。</li> <li>・教材分析について、分析の視点及び分析結果を、学習する内容との関連から説明できる。</li> <li>・教材分析の結果を踏まえて学習指導案を作成し、模擬授業が実践できる。</li> </ul>		
授業計画	<p>第1回 学習指導要領の趣旨に基づく音楽科の意義を理解した上で、本授業の目標と進め方、テキストの扱い方、評価の方法などについて理解する。各受講者が授業における自身の目標を確認する。</p> <p>第2回 音楽科に於ける教材研究の目的と意味について、示された事例を元にグループ討議を通して、理解する。</p> <p>第3回 同一の題材(教材となる楽曲等)について、音楽科の各領域、分野における指導と評価に関わった教材分析の視点から、それぞれの共通点、相違点についてグループ討議を通して理解する。</p> <p>第4回 音楽科の授業における指導内容(学習内容)と教材との関係から、教材の扱い方(取り上げる箇所の選択、ICTを用いた加工や提示の方法等)についてグループ討議を通して理解する。</p> <p>第5回 学習指導要領に基づき、教材に内包される学習内容について、「文化的背景」「音楽の仕組みと技能」「他媒体との関連」視点から分析することの意味を、グループ討議を通して理解する。</p> <p>第6回 第5回までのまとめ及び確認テスト 第5回までの学習内容が知識理解として習得されているか筆記試験で確認する。</p> <p>第7回 グループでの協働による、教材研究を踏まえた模擬授業作り① 領域、分野、校種及び対象学年、指導内容、教材を決める。</p> <p>第8回 グループでの協働による、教材研究を踏まえた模擬授業作り② 設定した指導内容と関連させ、3つの視点で教材分析を行い、教材の扱い方について検討する。</p> <p>第9回 グループでの協働による、教材研究を踏まえた模擬授業作り③ チェックシートの中で教材の扱い方を再検討して、学習指導案、ワークシートを作成する。</p> <p>第10回 グループでの協働による、教材研究を踏まえた模擬授業作り④ 各グループが、作成した学習指導案、ワークシートを発表し、教材の扱い方を全員で検討する。</p> <p>第11回 グループでの協働による、教材研究を踏まえた模擬授業作り⑤ 検討を加えた学習指導案に基づいて、教材の扱い方に重点を置き模擬授業の準備をする。</p> <p>第12回 グループでの協働による、教材研究を踏まえた模擬授業作り⑥ 第1グループが模擬授業を行い、全員で指導内容と教材の扱い方の整合性について協議する。</p> <p>第13回 グループでの協働による、教材研究を踏まえた模擬授業作り⑦ 第2グループが模擬授業を行い、全員で指導内容と教材の扱い方の整合性について協議する。</p> <p>第14回 グループでの協働による、教材研究を踏まえた模擬授業作り⑧ 第3グループが模擬授業を行い、全員で指導内容と教材の扱い方の整合性について協議する。</p> <p>第15回 模擬授業作り①～⑧で学んだことから、各自が自分のグループで行った模擬授業における教材の扱い方の改善点について考察しレポートにまとめる。</p>		
評価方法 (合計100%)	確認テスト (40%) レポート (40%) 取り組み姿勢 (20%)		
失格条件	3回以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習 与えられた課題を必ず習得しておくこと (3時間) 復習 各自不十分な箇所を復習 (1時間)		
課題へのフィード バック	作成した学習指導案、ワークシート等については、模擬授業の事前及び事後に協議による指導を行う。 確認テストについては、試験終了後に問題の出題意図の説明、理論と実践を関わらせた解説を行う。		
教科書	①『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説—音楽編』 ②『高等学校学習指導要領解説—芸術編』 ③『シリーズ・新時代の学びを創る 第6巻 音楽科 授業の理論と実践 生成の原理による授業の展開』2015年		
著者名	③小島律子編		
出版社	①文部科学省 ②文部科学省 ③あいり出版		
参考書	その都度指示		
その他	受講学生は幅広い音楽的知識と教職に対する自覚と熱意を要する。		
備考			
科目生への開講	あり		



ナンバリング	TE102B03	期間	前期
授業科目名	音楽科教育法C		
英訳科目名	Teaching Methods for Music C		
担当教員名	田中 龍三		
ディプロマ・ポリシー1	◎	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽科における教材研究の目的と意味、視点と方法を理解して教材研究を行う。</li> <li>・教材研究の結果を踏まえた学習指導案を作成及び模擬授業の実践を通して教材の扱い方について省察し、自身の課題を得る。</li> </ul>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領及び生成の原理に基づく、音楽科の基礎理論を根拠とした教材分析ができる。</li> <li>・教材分析について、分析の視点及び分析結果を、学習する内容との関連から説明できる。</li> <li>・教材分析の結果を踏まえて学習指導案を作成し、模擬授業が実践できる。</li> </ul>		
授業計画	<p>第1回 学習指導要領の趣旨に基づく音楽科の意義を理解した上で、本授業の目標と進め方、テキストの扱い方、評価の方法などについて理解する。各受講者が授業における自身の目標を確認する</p> <p>第2回 音楽科に於ける教材研究の目的と意味について、示された事例を元にグループ討議を通して、理解する</p> <p>第3回 同一の題材(教材となる楽曲等)について、音楽科の各領域、分野における指導と評価に関わった教材分析の視点から、それぞれの共通点、相違点についてグループ討議を通して理解する</p> <p>第4回 音楽科の授業における指導内容(学習内容)と教材との関係から、教材の扱い方(取り上げる箇所の選択、ICTを用いた加工や提示の方法等)についてグループ討議を通して理解する</p> <p>第5回 学習指導要領に基づき、教材に内包される学習内容について、「文化的背景」「音楽の仕組みと技能」「他媒体との関連」視点から分析することの意味を、グループ討議を通して理解する</p> <p>第6回 第5回までのまとめ及び確認テスト 第5回までの学習内容が知識理解として習得されているか筆記試験で確認する</p> <p>第7回 グループでの協働による、教材研究を踏まえた模擬授業作り① 領域、分野、校種及び対象学年、指導内容、教材を決める</p> <p>第8回 グループでの協働による、教材研究を踏まえた模擬授業作り② 設定した指導内容と関連させ、3つの視点で教材分析を行い、教材の扱い方について検討する</p> <p>第9回 グループでの協働による、教材研究を踏まえた模擬授業作り③ チェックシートの中で教材の扱い方を再検討して、学習指導案、ワークシートを作成する</p> <p>第10回 グループでの協働による、教材研究を踏まえた模擬授業作り④ 各グループが、作成した学習指導案、ワークシートを発表し、教材の扱い方を全員で検討する</p> <p>第11回 グループでの協働による、教材研究を踏まえた模擬授業作り⑤ 検討を加えた学習指導案に基づいて、教材の扱い方に重点を置き模擬授業の準備をする</p> <p>第12回 グループでの協働による、教材研究を踏まえた模擬授業作り⑥ 第1グループが模擬授業を行い、全員で指導内容と教材の扱い方の整合性について協議する</p> <p>第13回 グループでの協働による、教材研究を踏まえた模擬授業作り⑦ 第2グループが模擬授業を行い、全員で指導内容と教材の扱い方の整合性について協議する</p> <p>第14回 グループでの協働による、教材研究を踏まえた模擬授業作り⑧ 第3グループが模擬授業を行い、全員で指導内容と教材の扱い方の整合性について協議する</p> <p>第15回 模擬授業作り①～⑧で学んだことから、各自が自分のグループで行った模擬授業における教材の扱い方の改善点について考察しレポートにまとめる</p>		
評価方法 (合計100%)	確認テスト (40%) レポート (40%) 取り組み姿勢 (20%)		
失格条件	3回以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	予習 与えられた課題を必ず習得しておくこと (3時間) 復習 各自不十分な箇所を復習 (1時間)		
課題へのフィードバック	作成した学習指導案、ワークシート等については、模擬授業の事前及び事後に協議による指導を行う。 確認テストについては、試験終了後に問題の出題意図の説明、理論と実践を関わらせた解説を行う。		
教科書	①『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説—音楽編』 ②『高等学校学習指導要領解説—芸術編』 ③『シリーズ・新時代の学びを創る 第6巻 音楽科 授業の理論と実践 生成の原理による授業の展開』2015年		
著者名	③小島律子編		
出版社	①文部科学省 ②文部科学省 ③あいり出版		
参考書	その都度指示		
その他	受講学生は幅広い音楽的知識と教職に対する自覚と熱意を要する。		
備考			
科目生への開講	あり		



ナンバリング	TE102B04	期間	後期
授業科目名	音楽科教育法D		
英訳科目名	Teaching Methods for Music D		
担当教員名	石井 尚子		
ディプロマ・ポリシー-1	◎	ディプロマ・ポリシー-2	
ディプロマ・ポリシー-3		ディプロマ・ポリシー-4	
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習に向けて、生徒のレディネスを考慮した授業構成、授業展開の仕方を習得する。</li> <li>・教育実習に向けて、校種学年に適した指導内容及び学習課題の設定及び生徒の音楽的思考を引き出す発問の仕方を習得する。</li> </ul>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学習状況を確認しながら授業を構成し展開することができる。</li> <li>・生徒の学習状況の評価を通して、発問を工夫し、生徒の、知覚・感受に基づく音楽的思考を引き出すことができる。</li> </ul>		
授業計画	<p>第1回 学習指導要領の趣旨に基づく音楽科の意義を理解した上で、本授業の目標と進め方、テキストの扱い方、評価の方法などについて理解する。各受講者が授業における自身の目標を確認する。</p> <p>第2回 「中学校音楽科」と「高等学校芸術科音楽」の共通点と相違点及び連続性について理解する。</p> <p>第3回 音楽科の学習におけるレディネスについて、〔共通事項〕に示された音楽の要素を中心に、それぞれの要素の系統性を通して理解する。</p> <p>第4回 音楽科の授業における発問の意味と意義について、質問との比較を通して理解し、グループ討議を通して理解する。</p> <p>第5回 授業の中で行う評価の意味と仕方、評価に基づく発問の意味と仕方を、グループ討議を通して理解する。</p> <p>第6回 第5回までのまとめ及び確認テスト 第5回までの学習内容が知識理解として習得されているか筆記試験で確認する。</p> <p>第7回 グループでの協働による、生徒の音楽的思考を引き出す模擬授業作り① 領域、分野、校種及び対象学年、指導内容、教材を決める。</p> <p>第8回 グループでの協働による、生徒の音楽的思考を引き出す模擬授業作り② 指導内容を設定し、評価の方法及び音楽的思考を引き出す教師の発問について検討する。</p> <p>第9回 グループでの協働による、生徒の音楽的思考を引き出す模擬授業作り③ 指導内容に即した生徒の音楽的思考を引き出す場と方法について検討し、生徒のレディネスを配慮して学習指導案、ワークシートを作成する。</p> <p>第10回 グループでの協働による、生徒の音楽的思考を引き出す模擬授業作り④ 各グループが、作成した学習指導案、ワークシートを発表し、全員で検討する。</p> <p>第11回 グループでの協働による、生徒の音楽的思考を引き出す模擬授業作り⑤ 検討を加えた学習指導案に基づいて、生徒の「学びやすさ」に重点を置き、ICTの活用も含めて模擬授業の準備をする。</p> <p>第12回 グループでの協働による、生徒の音楽的思考を引き出す模擬授業作り⑥ 第1グループが模擬授業を行い、全員で「学びやすさ」を視点に授業を批評する。</p> <p>第13回 グループでの協働による、生徒の音楽的思考を引き出す模擬授業作り⑦ 第2グループが模擬授業を行い、全員で「学びやすさ」を視点に授業を批評する。</p> <p>第14回 グループでの協働による、生徒の音楽的思考を引き出す模擬授業作り⑧ 第3グループが模擬授業を行い、全員で「学びやすさ」を視点に授業を批評する。</p> <p>第15回 模擬授業作り①～⑧で学んだことから、各自が自分のグループで行った模擬授業についてレディネスの把握、音楽的思考を引き出す発問の内容と方法、授業の中での評価の視点から、生徒がより学びやすくなるための改善点について考察し改善の方法をレポートにまとめる。</p>		
評価方法 (合計100%)	確認テスト (40%) レポート (40%) 取り組み姿勢 (20%)		
失格条件	3回以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	教材研究を十分に行うこと。(一つの教材について、のべ2時間を目安とする)		
課題へのフィード バック	作成した学習指導案、ワークシート等については、模擬授業の事前及び事後に協議による指導を行う。確認テストについては、試験終了後に問題の出題意図の説明、理論と実践を関わらせた解説を行う。		
教科書	①『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説—音楽編』 ②『高等学校学習指導要領解説—芸術編』 ③『シリーズ・新時代の学びを創る 第6巻 音楽科 授業の理論と実践 生成の原理による授業の展開』2015年		
著者名	③小島律子編		
出版社	①文部科学省 ②文部科学省 ③あいら出版		
参考書	その都度指示		
その他	受講学生は幅広い音楽的知識と教職に対する自覚と熱意を要する。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング	TE102B04	期間	後期
授業科目名	音楽科教育法D		
英訳科目名	Teaching Methods for Music D		
担当教員名	田中 龍三		
ディプロマ・ポリシー-1	◎	ディプロマ・ポリシー-2	
ディプロマ・ポリシー-3		ディプロマ・ポリシー-4	
ディプロマ・ポリシー-5		ディプロマ・ポリシー-6	
授業概要・ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習に向けて、生徒のレディネスを考慮した授業構成、授業展開の仕方を習得する。</li> <li>・教育実習に向けて、校種学年に適した指導内容及び学習課題の設定及び生徒の音楽的思考を引き出す発問の仕方を習得する。</li> </ul>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学習状況を確認しながら授業を構成し展開することができる。</li> <li>・生徒の学習状況の評価を通して、発問を工夫し、生徒の、知覚・感受に基づく音楽的思考を引き出すことができる。</li> </ul>		
授業計画	<p>第1回 学習指導要領の趣旨に基づく音楽科の意義を理解した上で、本授業の目標と進め方、テキストの扱い方、評価の方法などについて理解する。各受講者が授業における自身の目標を確認する</p> <p>第2回 「中学校音楽科」と「高等学校芸術科音楽」の共通点と相違点及び連続性について理解する</p> <p>第3回 音楽科の学習におけるレディネスについて、〔共通事項〕に示された音楽の要素を中心に、それぞれの要素の系統性を通して理解する</p> <p>第4回 音楽科の授業における発問の意味と意義について、質問との比較を通して理解し、グループ討議を通して理解する</p> <p>第5回 授業の中で行う評価の意味と仕方、評価に基づく発問の意味と仕方を、グループ討議を通して理解する</p> <p>第6回 第5回までのまとめ及び確認テスト 第5回までの学習内容が知識理解として習得されているか筆記試験で確認する</p> <p>第7回 グループでの協働による、生徒の音楽的思考を引き出す模擬授業作り① 領域、分野、校種及び対象学年、指導内容、教材を決める</p> <p>第8回 グループでの協働による、生徒の音楽的思考を引き出す模擬授業作り② 指導内容を設定し、評価の方法及び音楽的思考を引き出す教師の発問について検討する</p> <p>第9回 グループでの協働による、生徒の音楽的思考を引き出す模擬授業作り③ 指導内容に即した生徒の音楽的思考を引き出す場と方法について検討し、生徒のレディネスを配慮して学習指導案、ワークシートを作成する</p> <p>第10回 グループでの協働による、生徒の音楽的思考を引き出す模擬授業作り④ 各グループが、作成した学習指導案、ワークシートを発表し、全員で検討する</p> <p>第11回 グループでの協働による、生徒の音楽的思考を引き出す模擬授業作り⑤ 検討を加えた学習指導案に基づいて、生徒の「学びやすさ」に重点を置き、ICTの活用も含めて模擬授業の準備をする</p> <p>第12回 グループでの協働による、生徒の音楽的思考を引き出す模擬授業作り⑥ 第1グループが模擬授業を行い、全員で「学びやすさ」を視点に授業を批評する</p> <p>第13回 グループでの協働による、生徒の音楽的思考を引き出す模擬授業作り⑦ 第2グループが模擬授業を行い、全員で「学びやすさ」を視点に授業を批評する</p> <p>第14回 グループでの協働による、生徒の音楽的思考を引き出す模擬授業作り⑧ 第3グループが模擬授業を行い、全員で「学びやすさ」を視点に授業を批評する</p> <p>第15回 模擬授業作り①～⑧で学んだことから、各自が自分のグループで行った模擬授業についてレディネスの把握、音楽的思考を引き出す発問の内容と方法、授業の中での評価の視点から、生徒がより学びやすくなるための改善点について考察し改善の方法をレポートにまとめる</p>		
評価方法 (合計100%)	確認テスト (40%) レポート (40%) 取り組み姿勢 (20%)		
失格条件	3回以上の欠席		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	教材研究を十分に行うこと。(一つの教材について、のべ2時間を目安とする)		
課題へのフィード バック	作成した学習指導案、ワークシート等については、模擬授業の事前及び事後に協議による指導を行う。確認テストについては、試験終了後に問題の出題意図の説明、理論と実践を関わらせた解説を行う。		
教科書	①『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説—音楽編』 ②『高等学校学習指導要領解説—芸術編』 ③『シリーズ新時代の学びを創る第6巻 音楽科 授業の理論と実践 生成の原理による授業の展開』2015年		
著者名	③小島律子編		
出版社	①文部科学省 ②文部科学省 ③あいら出版		
参考書	その都度指示		
その他	受講学生は幅広い音楽的知識と教職に対する自覚と熱意を要する。		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	集中
授業科目名	国語科教育法A		
英訳科目名	Teaching Method of Japanese A		
担当教員名	井上 雅彦		
ディプロマ・ポリシー1	◎	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	本講義では、中等教育機関において国語科授業を行うための基礎力を育成していく。 国語科教育の現代的な課題をとらえ、国語科の授業を実施していくうえで必要な、目標論・内容論・学習者論・評価論などを学習する。また、学習指導要領の記述を踏まえ、教材研究の力を高めるとともに、学習指導案の書き方を理解していく。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に「読むこと」領域に関わる指導について理解できる。</li> <li>・国語科教材の研究・分析・作成手法をつかむことができる。</li> <li>・国語科教育に深い関心を持ち、優れた授業を行うことができる。</li> </ul>		
授業計画	第1回 オリエンテーションー母語である国語をなぜ教えるのかー 第2回 国語科の指導内容と領域 第3回 解釈力（読む力）の構造 第4回 PISAの求める読む力 第5回 読むという行為の内実 第6回 PISA型読解力育成の基礎ー読み解き方（教科内容）を鍛えるー 第7回 PISA型読解力を育てる授業（「書くこと」「話すこと・聞くこと」含める） 第8回 これから求められる国語科授業の実際（「書くこと」「話すこと・聞くこと」含める） 第9回 国語科学習指導案作成の方法 第10回 説明文の授業づくりー小学校教材を用いてー 第11回 説明文の授業づくりー中学校教材を用いてー 第12回 文学の授業づくりー小学校教材を用いてー 第13回 文学の授業づくりー中学校教材を用いてー 第14回 説明文の模擬授業 第15回 文学の模擬授業		
評価方法 (合計100%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業の指導案（30%×2=60%）</li> <li>・模擬授業の内容（20%）</li> <li>・授業に対する積極的な取り組み姿勢（20%）</li> </ul>		
失格条件	4/5以上の出席を評価の基礎要件とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義で紹介する参考文献を次回講義までに読んでおくこと。（予習時間 1時間）</li> <li>・講義において出す課題について指導案・レポートを作成すること。（復習時間 3時間）</li> </ul> 質問等があれば、授業内でも遠慮なく聞いてください。		
課題へのフィード バック	課題提出後、個別にコメントする。		
教科書	中学校学習指導要領解説 国語編 高等学校学習指導要領解説 国語編		
著者名	文部科学省		
出版社	(中) 東洋館出版社;(高) 教育出版		
参考書			
その他	中学校学習指導要領解説 国語編は必ず購入し持参してください		
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	集中
授業科目名	国語科教育法B		
英訳科目名	Teaching Method of Japanese B		
担当教員名	井上 雅彦		
ディプロマ・ポリシー1	◎	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」領域と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する指導」事項の実践力を養う。授業を実践するために必要な能力（資質・知識・実践力）の中でも、特に、授業をデザインする際に求められる単元・授業の設計能力（授業デザイン）と教材開発能力について学習する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に「話すこと・聞くこと」「書くこと」領域と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する指導」事項の授業が実践できる。</li> <li>・国語科教材の研究・分析・授業展開の方法が理解できる。</li> <li>・国語科教育に深い関心を持ち、優れた授業ができる。</li> </ul>		
授業計画	第1回 韻文の指導①－短歌、俳句－ 第2回 韻文の指導②－詩－ 第3回 「話すこと・聞くこと」の学習指導①－話題設定や取材に関する指導－ 第4回 「話すこと・聞くこと」の学習指導②－話すことに関する指導、聞くことに関する指導－ 第5回 「話すこと・聞くこと」の学習指導③－話し合うことに関する指導－ 第6回 「書くこと」の学習指導①－「書くこと」指導の歴史－ 第7回 「書くこと」の学習指導②－課題設定や取材に関する指導、構成に関する指導事項－ 第8回 「書くこと」の学習指導③－記述に関する指導、推敲に関する指導、交流に関する指導－ 第9回 古典の学習指導①－古典の意義と目的、指導上の留意点－ 第10回 古典の学習指導②－平家物語－ 第11回 古典の学習指導③－竹取物語、漢詩－ 第12回 国語の特質に関する指導 第13回 読書指導 第14回 国語科における評価①－評価の歴史と今求められる評価 第15回 国語科における評価②－評価と評定		
評価方法 (合計100%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の提出状況とその内容（60%）</li> <li>・模擬授業の内容（20%）</li> <li>・授業に対する積極的取り組み姿勢（20%）</li> </ul>		
失格条件	4/5以上の出席を基礎要件とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義で紹介する参考文献を次回講義までに読んでおくこと。（予習 1時間）</li> <li>・講義において出す課題について指導案・レポート等を作成すること。（復習 3時間）</li> </ul>		
課題へのフィード バック	課題提出後、個別にコメントする。		
教科書	中学校学習指導要領解説国語編 高等学校学習指導要領解説国語編		
著者名	文部科学省		
出版社	(中)東洋館出版;(高)教育出版		
参考書			
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり		



ナンバリング	TE102B07	期間	前期
授業科目名	国語科教育法C		
英訳科目名	Teaching Methods for Japanese Language and Literature C		
担当教員名	鈴木 徳男		
ディプロマ・ポリシー1	◎	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	国語科教育法A・Bで学んだ国語科の基本原則、授業の構成と展開の方法に基づき、伝統的な言語文化に関する教材研究・指導案の作成・模擬授業・評価の実践を通して、授業をデザインする力を高めていく。さらに、アクティブラーニングや情報機器を取り入れた単元作りや授業デザイン、国語科教育における図書館の活用についても学ぶ。授業では、ペアトーク、グループワーク、プレゼンテーションなどを多く取り入れ、受講生自らがアクティブラーナーになるように配慮する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科教材の適切な学習指導の展開・方法を考えることができる。</li> <li>・作成した学習指導案にもとづき、具体的に授業を実践できる。</li> <li>・国語科教材に応じた情報機器を効果的に活用できる。</li> </ul>		
授業計画	第1回 オリエンテーションー伝統的な言語文化についてー 第2回 伝統的な言語文化の授業デザイン① 『竹取物語』教材研究と指導案 第3回 伝統的な言語文化の授業デザイン② 『竹取物語』模擬授業 第4回 伝統的な言語文化の授業デザイン③ 『竹取物語』評価 第5回 図書館の活用① 読書指導 第6回 伝統的な言語文化に関するアクティブラーニングの授業デザイン① 『平家物語』教材研究と指導案 第7回 伝統的な言語文化に関するアクティブラーニングの授業デザイン② 『平家物語』模擬授業 第8回 伝統的な言語文化に関するアクティブラーニングの授業デザイン③ 『平家物語』評価 第9回 伝統的な言語文化の授業デザイン④ 『万葉集』『古今和歌集』『新古今集』教材研究と指導案 第10回 伝統的な言語文化の授業デザイン⑤ 『万葉集』『古今和歌集』『新古今集』模擬授業 第11回 伝統的な言語文化の授業デザイン⑥ 『万葉集』『古今和歌集』『新古今集』評価 第12回 図書館の活用② 調べ学習の指導 第13回 伝統的な言語文化における情報機器を活用した授業デザイン① 『枕草子』教材研究と指導案 第14回 伝統的な言語文化における情報機器を活用した授業デザイン② 『枕草子』模擬授業 第15回 伝統的な言語文化における情報機器を活用した授業デザイン③ 『枕草子』評価		
評価方法 (合計100%)	指導案 (40%) 模擬授業の発表内容 (40%) 課題 (20%)		
失格条件	教材研究・指導案の作成および模擬授業・評価の実践をおこなわなかった場合		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	受講生各自の発表報告が必須なので、そのために教員の指導を受けて準備を行う。授業時間外にも各自が積み重ねる事項が多い。予習復習の基準時間は、予習2時間 (90分)・復習2時間 (90分)。		
課題へのフィード バック	各自の報告発表に基づき、全体に向けてコメントします。		
教科書	①中学校学習指導要領解説 国語編 (昭和29年6月 文部科学省) ②高等学校学習指導要領解説 国語編 ③実践国語科教育法-第3版		
著者名	③町田守弘、岩崎淳ほか		
出版社	③学文社		
参考書	授業中に適宜資料を配付する。		
その他			
備考	教科書のうち、①②は国語科教育法A・B・C・Dに共通、③は同C・Dに共通。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング	TE102B08	期間	後期
授業科目名	国語科教育法D		
英訳科目名	Teaching Methods for Japanese Language and Literature D		
担当教員名	荒井 真理亜		
ディプロマ・ポリシー1	○	ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3	○	ディプロマ・ポリシー4	○
ディプロマ・ポリシー5	◎	ディプロマ・ポリシー6	○
授業概要・ポイント	国語科教育法A・Bで学んだ国語科の基本原則、授業の構成と展開の方法に基づき、近代以降の言語文化に関する教材研究・指導案の作成・模擬授業・評価の実践を通して、授業をデザインする力を高めていく。さらに、アクティブラーニングや情報機器を取り入れた単元作りや授業デザイン、国語科教育における図書館の活用についても学ぶ。授業では、ペアトーク、グループワーク、プレゼンテーションなどを多く取り入れ、受講生自らがアクティブラーナーになるように配慮する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科教材の適切な学習指導の展開・方法を考えることができる。</li> <li>・作成した学習指導案にもとづき、具体的に授業を実践できる。</li> <li>・国語科教材に応じた情報機器を効果的に活用できる。</li> </ul>		
授業計画	第1回 オリエンテーションー近代以降の言語文化についてー 第2回 近代以降の言語文化に関する授業デザイン① 説明文 教材研究と指導案 第3回 近代以降の言語文化に関する授業デザイン② 説明文 模擬授業 第4回 近代以降の言語文化に関する授業デザイン③ 説明文 評価 第5回 図書館の活用① 読書の指導 第6回 近代以降の言語文化に関するアクティブラーニングの授業デザイン① 説明文 教材研究と指導案 第7回 近代以降の言語文化に関するアクティブラーニングの授業デザイン② 説明文 模擬授業 第8回 近代以降の言語文化に関するアクティブラーニングの授業デザイン③ 説明文 評価 第9回 近代以降の言語文化に関する授業デザイン④ 小説 教材研究と指導案 第10回 近代以降の言語文化に関する授業デザイン⑤ 小説 模擬授業 第11回 近代以降の言語文化に関する授業デザイン⑥ 小説 評価 第12回 図書館の活用② 調べ学習の指導 第13回 近代以降の言語文化に関する情報機器を活用した授業デザイン① 小説 教材研究と指導案 第14回 近代以降の言語文化に関する情報機器を活用した授業デザイン② 小説 模擬授業 第15回 近代以降の言語文化に関する情報機器を活用した授業デザイン③ 小説 評価		
評価方法 (合計100%)	指導案 (40%) 模擬授業の発表内容 (40%) 課題 (20%)		
失格条件	全授業の3分の1以上の欠席 指定された回数の発表をしなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導案の作成 (予習1時間)</li> <li>・教材研究 (予習1時間)</li> <li>・発表の準備 (予習1時間)</li> <li>・指摘された点の修正 (復習1時間)</li> </ul>		
課題へのフィードバック	模擬授業の終了後、個別にコメントします。		
教科書	中学校・高等学校 国語科教育法研究		
著者名	田近洵一・鳴島甫		
出版社	東洋館出版		
参考書	『中学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社 978-4-491-02538-9 『高等学校学習指導要領解説 国語編』教育出版 978-4-316-30021-4 その他の参考書については授業中に紹介します。		
その他			
備考	国語科教育法Cと同じ教科書を使用します。 国語科教育法Cを受講し、既に教科書を持っている場合は改めて購入する必要はありません。		
科目生への開講	なし		

ナンバリング		期間	前期
授業科目名	宗教科教育法A		
英訳科目名	Teaching Method of Religion A		
担当教員名	村上 泰順		
ディプロマ・ポリシー1	◎	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>テーマ：宗教教育とは何か</p> <p>宗教科教育法AとBは一連の講義であることを前提にして授業をする。宗教教育の変遷と現在行われている宗教教育を概観し、宗教教育とは何かについて考える。また具体的に宗教科教育の内容と指導計画についても言及する。なお、本講義は本願寺関係学校の宗教教育を念頭に置いて行う。</p>		
到達目標	<p>学校内での法要、日々の礼拝、宗教科の授業も宗教教育である。宗教科教員は教科以外の宗教教育にも深く関係する。その点をふまえて次のことを到達目標とする。</p> <p>①どのような過程を経て宗教教育が行われるようになったかを理解する。</p> <p>②親鸞聖人の人間観に基づく教員とはどのようなものかを理解する。</p> <p>③宗教教育の目標を見出す。</p>		
授業計画	<p>第1回 「宗教科教育法」という講義</p> <p>第2回 学校教育と宗教の関係 (1) 仏教教育の精神 (最澄『山家学生式』に学ぶ)</p> <p>第3回 学校教育と宗教の関係 (2) 日本における学校教育のはじまりと仏教 (空海、綜芸種智院)</p> <p>第4回 学校教育と宗教の関係 (3) まとめ</p> <p>第5回 親鸞聖人の伝道観</p> <p>第6回 親鸞聖人の人間観 (浄土真宗の人間像)</p> <p>第7回 宗教教育の変遷 (1) 明治時代以降の宗教教育</p> <p>第8回 宗教教育の変遷 (2) 大正の宗教教育</p> <p>第9回 宗教教育の変遷 (3) 昭和の宗教教育</p> <p>第10回 宗教教育関係法令と宗教教育</p> <p>第11回 宗教教育の定義についてのさまざまな見解</p> <p>第12回 現在行われている宗教教育及び宗教科の教育</p> <p>第13回 教科書について (本願寺派関係学校を中心に)</p> <p>第14回 『見真』を通読して年間指導計画を考える</p> <p>第15回 宗教教育の目標及びどのような生徒を育てたいか</p> <p>※定期試験は実施しない。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度40%</p> <p>レポート60%</p>		
失格条件	欠席が4回になれば失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>「授業計画」の①～⑩までは、授業中に紹介する参考文献、配付資料を読んで、各授業の予備知識を習得しておくこと。(予習120分) また、配布する資料のすべては授業中には読み切れないので、各自で読んで、授業内容をまとめること。(復習60分)</p> <p>⑪～⑫は、参考文献に挙げた『宗教と教育』から、各校の宗教教育を確認すること。(予習120分) 『宗教と教育』中の学校と授業で取り上げた学校の宗教教育の同異を確認して、自分の目指す宗教教育を見出すこと。(復習60分)</p> <p>⑬～⑮は『見真』を通読して、宗教科で何を教えるかを把握する。(予習120分) 授業で作成した年間指導計画を元に高校1年生の年間指導計画を完成する。(復習60分)</p> <p>宗教科の教員は仏教行事の指導をしなければならないので、学校で行われる仏教行事に参加することが大切である。また法話をする機会も多いので、出来るだけ多く法話を聞いてほしい。(予習2時間、復習2時間)</p>		
課題へのフィードバック	課題は講評して返却する。		
教科書	見真		
著者名	龍谷総合学園		
出版社	本願寺出版社		
参考書	<p>中学校学習指導要領 (平成29年3月告示 文部科学省)</p> <p>高等学校学習指導要領</p> <p>『宗教教育の理論と実際』 日本宗教学会編、鈴木出版</p> <p>『宗教教育と宗教』 國學院大學日本文化研究所編 弘文堂</p>		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		

ナンバリング		期間	後期
授業科目名	宗教科教育法B		
英訳科目名	Teaching Method of Religion B		
担当教員名	村上 泰順		
ディプロマ・ポリシー1	◎	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>テーマ：学習指導案作成と模擬授業          本講義は本願寺関係学校の宗教教育を念頭に置いて行う。具体的には、          ①釈尊の生涯とその教えを理解する。          ②学習指導案をつくって授業をする。          ③分かりやすい授業をするための留意点について考える。</p>		
到達目標	<p>①釈尊の生涯とその教えについての基礎的知識を習得する。          ②学習指導案をつくって授業ができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 「宗教科教育法B」について          基本的知識の確認（『見真』「第2章1節 釈尊の歩み」の内容確認テスト）          第2回 『見真』「第2章1節 釈尊の歩み」          第3回 『見真』「第2章2節 釈尊の教え」          第4回 教材に対するアプローチの仕方（1）教員による『見真』「1節 1誕生」の授業を通して          第5回 教材に対するアプローチの仕方（2）受講生による『見真』「1節 2出家」の授業を通して          第6回 教材に対するアプローチの仕方（3）受講生による『見真』「1節 3成道」の授業を通して          第7回 学習指導案の書き方          第8回 『見真』「1節 4伝道」の学習指導案作成          第9回 『見真』「1節 4伝道」の学習指導案指導          第10回 学習指導案に基づく模擬授業          第11回 『見真』「2節 釈尊の教え 1縁起（または3四諦八正道）」の模擬授業          第12回 わかりやすい授業を目指して（1）板書・ノート・プリント、導入、授業の準備 等          第13回 わかりやすい授業を目指して（2）授業の進め方・形態、法話、補助教材 等          第14回 基本的知識の確認（『見真』「第3章2節 大乘仏教への道」）          教材に対するアプローチの仕方。          第15回 『見真』「第3章2節 大乘仏教への道 2北伝仏教」の模擬授業          「宗教科教育法B」まとめ          ※定期試験は実施しない。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度60%          レポート40%</p>		
失格条件	欠席が4回になれば失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>下記の参考文献は、高校生にわかるように書かれてある。これらの参考文献をは、①～③の間に、通読しておくこと。その上で、釈尊の生涯と教えに関しては、授業中に紹介もするが、自分にあった書物を見つけて、読み進めて欲しい。          ②～③は自分の知識が不足している所を『見真』と参考文献で勉強しておくこと。（予習120分）また授業で取り上げたことを、知識として定着させること。（復習60分）          ④～⑥は釈尊の「誕生」「出家」「成道」について、『見真』を中心に、参考文献の記述も参考にして、どこを中心に授業すればいいのかを考えておく。（予習90分）授業では、何を中心に授業すればいいのかを検討するので、各自が予習した内容との同異をふまえて、どのような授業をすればいいのかを考える。（復習90分）          ⑦～⑩は配布するプリントを読むこと。学習指導案は大学、教育関係機関で公開されている。それらを見て、学習指導案とはどのようなものであるかを理解しておく。さらに「伝道」について、④～⑥で行った予習をする。（予習90分）学習指導案を完成する。模擬授業をしてみても、より良い授業をするための課題を確認する。（復習90分）          ⑪は学習指導案を考える。（予習120分）模擬授業をより良い授業にするための課題を見つける。（復習90分）          ⑫～⑬は配布するプリントを読む。（予習90分）法話、授業形態について講義中に指示することを考える。また今回の復習の一つであるが、法話を積極的に聞く。（復習90分）⑭～⑮は④～⑥で指示したことと同じことをする。ただ、⑭⑮は大変難しい。（予習90分、復習90分）          （予習2時間、復習2時間）</p>		
課題へのフィードバック	課題は講評して返却する。		
教科書	見真		
著者名	龍谷総合学園編著		
出版社	本願寺出版社		
参考書	<p>中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）          高等学校学習指導要領          『ブツダ物語』中村元、田辺和子著岩波ジュニア新書          『釈尊 生涯と教え』真宗大谷派学校連合会篇 東本願寺出版</p>		
その他			
備考			
科目生への開講	あり		



ナンバリング	TE102B11	期間	前期
授業科目名	宗教科教育法C		
英訳科目名	Teaching Methods for Religious EducationC		
担当教員名	村上 泰順		
ディプロマ・ポリシー1	◎	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>テーマ：生活の中での仏教行事と生活の中で出会う世界の宗教</p> <p>私たちが日々参加する宗教行事の意味を考えると共に、自分が宗教と関わることによって、自分が生きる力を得たり、安らぎを得ることもある。そのことについて受講生と共に考える。宗教知識が乏しいために、人にだまされたり、他者や他文化を誤解したりする。そのようなことを防ぐために高校1年生に設定された単元にある世界の諸宗教を取り上げて、それぞれの宗教の概要を学ぶ。本講義で学んだことをテーマに模擬授業を課す。なお、前半は中学生を対象とした授業を課す。</p>		
到達目標	<p>① 仏教、浄土真宗の年間行事の意味を理解し、中学生を対象にした授業ができる。</p> <p>② 儒教、道教、神道、ユダヤ教、ヒンズー教、キリスト教、イスラム教について宗教知識教育としての授業ができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 「宗教科教育法C」について</p> <p>第2回 宗教行事について (1) 『みのり』 「第1章1節 宗教行事に学ぶ」を通して</p> <p>第3回 宗教行事について (2) 仏教、浄土真宗の年間行事とその意味</p> <p>第4回 宗教行事について (3) 『みのり』 「1節 3お盆」 「1節 8御正忌報恩講」の模擬授業</p> <p>第5回 道德教育と宗教教育</p> <p>第6回 私とは (1) 仏教に見た私とは (過去とのつながり、人やものとの相依相関関係)</p> <p>第7回 私とは (2) 浄土真宗から見た私とは (『見真』 「第1章1節」 「第1章2節」を通して)</p> <p>第8回 私とは (3) 『見真』 「第1章1節 人生に眼を向ける 2第二の誕生」模擬授業</p> <p>第9回 私とは (4) 『見真』 「第1章2節 わたしと他とのかかわり 4生きるということ」模擬授業</p> <p>第10回 世界の宗教を知る (1) (『見真』 「第1章3節 宗教の起源」を通して)</p> <p>第11回 世界の宗教を知る (2) 儒教と道教・神道 (模擬授業)</p> <p>第12回 世界の宗教を知る (3) ユダヤ教・ヒンズー教 (模擬授業)</p> <p>第13回 世界の宗教を知る (4) キリスト教 (模擬授業)</p> <p>第14回 世界の宗教を知る (5) イスラム教 (模擬授業)</p> <p>第15回 世界の宗教を知る (6) テスト問題作成</p> <p>※定期試験は実施しない。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度60%</p> <p>レポート40%</p>		
失格条件	欠席が4回になれば失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>①～④は大学、本願寺などの宗教行事にできるだけ参加する。また『みのり』 「第1章第1節宗教行事に学ぶ」を読んでおくこと。授業中に紹介する文献に当たっておくこと。模擬授業の準備。(予習120分) 宗教行事に参加して、自分の問題として宗教行事を考える。模擬授業をした結果、指示されれば、学習指導案を書き直す。模擬授業の反省、講評をつくって担当者にメールする。(復習60分)</p> <p>⑤は『私たちの道德(中学校)』を通読する。(予習150分) 道德教育と宗教教育の同異を考える。(復習30分)</p> <p>⑥～⑨『見真』 「第1章1節、人生に眼を向ける」 「2節、わたしと他とのかかわり」を読み、書かれている内容を自分の問題として考える。その上で、模擬授業の準備をする。(予習120分) 高校生が自分の問題として『見真』 「第1章1節、人生に眼を向ける」 「2節、わたしと他とのかかわり」を受け止めるにはどのような授業であればいいかを考える。模擬授業をした結果、指示されれば、学習指導案を書き直す。模擬授業の反省、講評をつくって担当者にメールする。(復習60分)</p> <p>⑩～⑮授業中指示する文献を読む。私の(予習120分) 授業または模擬授業をふまえて各宗教についての概略をまとめる。(復習60分)</p> <p>「(予習2時間、復習2時間)」</p>		
課題へのフィードバック	課題は講評して返却する。		
教科書	『見真』 『みのり』		
著者名	龍谷総合学園編著		
出版社	本願寺出版社		
参考書	『世界の宗教』村上重良著 岩波ジュニア新書 『ともしび』真宗大谷派学校連合会編 東本願寺出版		
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

ナンバリング	TE102B12	期間	後期
授業科目名	宗教科教育法D		
英訳科目名	Teaching Methods for Religious EducationD		
担当教員名	村上 泰順		
ディプロマ・ポリシー1	◎	ディプロマ・ポリシー2	
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>テーマ：親鸞聖人の生涯とその教え</p> <p>『見真』所収の親鸞聖人の生涯について分かりにくいところ、注意すべき所を中心に解説する。教えについては簡略に示されているので、参考書を用いて丁寧に教えを解説する。教えをどのように受け止めたかを語るのが法話である。浄土真宗ではあらゆる場面で法話をするので、受講生の法話作りを支援する。『見真』に書かれていないことを授業する場合は、教員が自分で短いテキストをつくることもある。その点を考慮して、テキスト作りについて考えたい。</p>		
到達目標	<p>①親鸞聖人の生涯とその教えについての基礎的知識を習得する。</p> <p>②学習指導案をつくって授業ができる。</p>		
授業計画	<p>第1回 「宗教科教育法D」について</p> <p>第2回 法話をつくる (1) 宗教行事の法話原稿をつくる</p> <p>第3回 法話をつくる (2) 相愛高校『日々の糧』による5分程度の法話実演</p> <p>第4回 法話をつくる (3) 宗教行事の法話実演</p> <p>第5回 『見真』「第4章 親鸞聖人の生涯」 (1) 注意すべき点</p> <p>第6回 『見真』「第4章 親鸞聖人の生涯」 (2) より深い理解のために</p> <p>第7回 『見真』「第4章 親鸞聖人の生涯」模擬授業 (1) 「1節 誕生と求道 1誕生」</p> <p>第8回 『見真』「第4章 親鸞聖人の生涯」模擬授業 (2) 「2節 法難と伝道 3愚禿の内省」</p> <p>第9回 『見真』「第4章 親鸞聖人の生涯」模擬授業 (3) 「3節 帰洛と晩年 2晩年の生活」</p> <p>第10回 『見真』「第5章 念仏の教え」について解説</p> <p>第11回 『見真』「第5章 念仏の教え」模擬授業の準備</p> <p>第12回 『見真』「第5章1節 阿弥陀仏の本願」模擬授業</p> <p>第13回 授業用テキスト作成「蓮如上人について」</p> <p>第14回 授業用テキスト「蓮如上人について」模擬授業</p> <p>第15回 宗教科及び宗教科教員の現状と課題</p> <p>※定期試験は実施しない。</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>授業への参加態度60%</p> <p>レポート40%</p>		
失格条件	欠席が4回になれば失格とする。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>①～②は宗教行事に参加して法話を聞く。法話集を読む。(予習90分) 指示されたテーマで法話をつくる。(復習90分)</p> <p>③～⑦は『見真』「第4章親鸞聖人の生涯」を読む。『本願寺史』で親鸞聖人の生涯についての章を読む。学習指導案をつくる。(予習120分) 授業で問題になった所を『本願寺史』で確認する。模擬授業をした結果、指示されれば、学習指導案を書き直す。模擬授業の反省、講評をつくって担当者にメールする。(復習60分)</p> <p>⑧～⑫は『見真』「第5章念仏の教え」を丁寧に読む。『親鸞教義とその背景』の「親鸞聖人の教義」を熟読する。分からないところは、授業中に質問できるようにしておく。(予習120分) 授業で取り上げた内容を確認する。またその内容を高校生に説明できるようにする。模擬授業をした結果、指示されれば、学習指導案を書き直す。模擬授業の反省、講評をつくって担当者にメールする。(復習60分)</p> <p>⑬～⑮は指示された文献を読む。学習指導案を考える。(予習120分) 作ったテキストを検討する。指示されれば、テキストを書き直す。(復習60分)</p> <p>(予習2時間、復習2時間)</p>		
課題へのフィードバック	課題は講評して返却する。		
教科書	『見真』		
著者名	龍谷総合学園編著		
出版社	本願寺出版社		
参考書	<p>中学校学習指導要領 (平成29年3月告示 文部科学省)</p> <p>高等学校学習指導要領</p> <p>『本願寺史』第1巻 本願寺資料研究所編 本願寺出版社</p> <p>『親鸞教義とその背景』村上速水著 永田文昌堂</p> <p>『親鸞 生涯と教え』真宗大谷派学校連合会編 東本願寺出版</p>		
その他			
備考			
科目生への開講	なし		

6-034

ナンバリング	TE403C01	期間	通年
授業科目名	教育実習1（事前事後指導）		
英訳科目名	TeachingPracticum1(in class)		
担当教員名	沼田 潤、長谷川 精一		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	教育実習1・2・3の単位を取得するためには、学内での事前指導、実習校での実習、学内での事後指導のすべてを履修する必要がある。教師の職務は、教科を教えることにとどまらず、学級経営、生活指導、進路指導、校務分掌など多岐にわたる。事前指導では実地実習に必要なこれら基本的な事項と心構えについて、事後指導では、実習体験を振り返りながら、教職についての総合的な理解を深める。		
到達目標	教育実習を行うために必要な基本的な事項と心構えに対して理解を深めることを目標とする。		
授業計画	第1回 担当教員による全般的説明 第2回 担当教員による「実習ノート」の記入の仕方等、具体的事項の指導 第3回 実習受け入れ校等の学外講師による教科指導と生徒指導についての講演（1） 第4回 実習受け入れ校等の学外講師による教科指導と生徒指導についての講演（2） 第5回 教育実習にあたっての各自の課題の設定 第6回 実地実習の成果と課題についての発表と検討		
評価方法 (合計100%)	事前・事後指導への参加態度（30%）、実習レポート（50%）、提出課題（20%）を考慮し、総合的に評価する。		
失格条件	①授業・ガイダンスを2回以上欠席した場合（公欠を除く） ②課題・提出物を期限内に提出しなかった場合 ③教員採用試験を受けなかった場合、または、その報告書を提出しなかった場合		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	授業で学んだことがらについて、何が重要かをノートに書いてまとめ、実習に対して自覚的に十分な準備をすること。		
課題へのフィードバック	授業で課題へのフィードバックを行う。		
教科書	なし		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり（※B種科目等履修生対象）		

6-035

ナンバリング	TE403C02	期間	通年集中
授業科目名	教育実習2（実地実習）		
英訳科目名	TeachingPracticum2(at school)		
担当教員名	沼田 潤、長谷川 精一		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	実習校において、教師の職務の概要を理解し、教科指導、特別活動、道徳、総合的学習などの指導に必要な資質、技術を経験的に学び獲得する。あわせて中学校、高等学校の生徒の客観的理解とともに、学校の組織、運営、管理の実際を学ぶ。		
到達目標	実習を通して、教師の職務の概要、生徒理解、学校組織の運営、管理について理解することを目標とする。		
授業計画	各校でのオリエンテーションおよび実地実習		
評価方法 (合計100%)	実習校による成績評価60%、実習ノートと教育実習報告書40%を考慮し、総合的に評価する。		
失格条件	①実地実習を修了しなかった場合 ②実習期間中正当な理由なく遅刻欠席をした場合 ③教員採用試験を受験しなかった場合、または、その報告書を提出しなかった場合 ④報告書、実習ノート等、必要書類を期限までに提出しなかった場合		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	授業で学んだことがらについて、何が重要かをノートに書いてまとめ、実習に対して自覚的に十分な準備をすること。		
課題へのフィード バック	授業で課題へのフィードバックを行う。		
教科書	なし		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり（※B種科目等履修生対象）		

6-036

ナンバリング	TE403C03	期間	通年集中
授業科目名	教育実習3（実地実習）		
英訳科目名	TeachingPracticum3(at school)		
担当教員名	沼田 潤、長谷川 精一		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	実習校において、教師の職務の概要を理解し、教科指導、特別活動、道徳、総合的学習などの指導に必要な資質、技術を経験的に学び獲得する。あわせて中学校、高等学校の生徒の客観的理解とともに、学校の組織、運営、管理の実際を学ぶ。		
到達目標	実習を通して、教師の職務の概要、生徒理解、学校組織の運営、管理について理解することを目標とする。		
授業計画	実習校でのオリエンテーションおよび実地実習		
評価方法 (合計100%)	実習校による成績評価60%、実習ノートと教育実習報告書40%を考慮し、総合的に評価する。		
失格条件	①実地実習を修了しなかった場合 ②実習期間中正当な理由なく遅刻欠席をした場合 ③教員採用試験を受験しなかった場合、または、その報告書を提出しなかった場合 ④報告書、実習ノート等、必要書類を期限までに提出しなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	実習期間中は体調管理に十分留意し、実習担当教員の指導のもと、実地での体験をしっかりと積むこと。		
課題へのフィード バック	授業で課題へのフィードバックを行う。		
教科書	なし		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり（※B種科目等履修生対象）		

6-037

ナンバリング	TE503C01	期間	前期
授業科目名	介護体験		
英訳科目名	Practical Experience in Nursing Care		
担当教員名	沼田 潤、雲井 稔、長谷川 精一		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	介護体験は、義務教育諸学校の教師を志す者に、高齢者や障害者等に対する介護体験等を義務づけて、様々な立場の人とのふれあいを通じて、人として、相手の立場や気持ちを理解し、人間一人ひとりの尊厳と価値観の違いを理解することのできる資質をもった教師を育てることを目的としている。社会福祉施設で5日間、特別支援学校で2日間の体験が必要であり、この体験に必要な、知識・技術・態度を学ぶとともに、個々の施設、学校別のガイダンスを実施する。		
到達目標	社会福祉施設、特別支援学校における介護体験に必要な、知識・技術・態度を理解することを目標とする。		
授業計画	<p>第1回 介護体験の心がまえ</p> <p>第2回 社会福祉施設や特別支援学校の目的・概要等について</p> <p>第3回 社会福祉施設関係者によるガイダンス</p> <p>第4回 特別支援学校関係者によるガイダンス</p> <p>第5回 特別支援学校における介護等体験に向けての各自の課題設定</p> <p>第6回 社会福祉施設での実際の体験（5日間）</p> <p>第7回 特別支援学校での実際の体験（2日間）</p> <p>第8回 介護体験報告・交流会</p> <p>授業以外にもガイダンスが数回あるので授業課及び教職課程合同研究室の掲示板をよく見ておくこと。</p>		
評価方法 (合計100%)	授業への参加態度と体験ノート（70%）、介護等体験の実績（30%）を総合的に判断して単位を認定する。		
失格条件	<p>①社会福祉施設、特別支援学校での介護等体験の非修了者</p> <p>②授業・ガイダンスを2回以上欠席した場合（公欠を除く）</p> <p>③課題・提出物を期限内に提出しなかった場合</p> <p>④正当な理由なく実地体験を欠席・遅刻した場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	授業で学んだことから、気づいたことからをノートに書いてまとめて理解の定着を図り、積極的、自覚的に介護体験に臨むこと。		
課題へのフィードバック	授業で課題へのフィードバックを行う。		
教科書	なし		
著者名			
出版社			
参考書	中島理編集『介護体験マニュアル』東京法令出版		
その他	本学を介して、社会福祉施設ないし特別支援学校で実際に介護体験を行なう者だけが、履修登録できる。また教職課程履修登録者に限る。		
備考			
科目生への開講	あり（※B種科目等履修生対象）		



ナンバリング	TE403C04	期間	後期
授業科目名	教職実践演習（中・高）		
英訳科目名	Teaching Practical Seminar (Secondary Education)		
担当教員名	沼田 潤、長谷川 精一		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	<p>本授業においては、使命感や責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力、生徒を理解し学級を経営する能力、教科内容の指導力という、教員として求められる資質能力を向上させていくことを課題として、学内での授業において、グループ討論、ロールプレイング、ディベート、模擬授業等の方法を取り入れる。さらに、大阪市との提携に基づく教職インターンシップ（学校支援学生ボランティア）、及び、本学の近隣地域の提携校へ学校支援学生ボランティアを通じて、学校現場における事例研究、現地調査を行い、その成果を報告、討論する。</p>		
到達目標	<p>本授業は、教職課程の他の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて学生が身につけた資質能力が、教員として必要な資質能力として有機的に統合され形成されているかを確認し、卒業後、教職に就くために自己にとって何が課題であるのかを自覚し、不足している知識・技能を補い、その定着を図ることによって、教員としての職務を円滑に開始できるようにすることを目標とする。</p>		
授業計画	<p>第1回 各回の授業内容、「学校支援学生ボランティア」の説明。履修カルテを通じた受講生各自の教職課程に関する学修状況の再確認、不十分な点の分析と個別課題の設定（全員）</p> <p>第2回 「学校現場における事例研究、現地調査」の事前指導（各自の課題、研究、調査方の設定）。（全員）</p> <p>第3回 中学校・高校現職教員による講義。現職教員を交えた討論（1） …教職の意義、職務内容、学級経営、生徒理解に関して（中グループ）</p> <p>第4回 中学校・高校現職教員による講義。現職教員を交えた討論（2） …社会性、対人関係能力に関して（保護者や地域の関係者との人間関係構築）（中グループ）</p> <p>第5回 模擬授業（1）：教育実習の経験をふまえ、「教職に関する科目」担当教員とともに（小グループ）</p> <p>第6回 模擬授業（2）：教育実習の経験をふまえ、「教科に関する科目」担当教員とともに（小グループ）</p> <p>第7回 教職の意義、教員の役割に関するグループ討論（中グループ）</p> <p>第8回 生徒理解、学級運営に関するロールプレイング（小グループ）</p> <p>第9回 社会性、対人関係能力に関するロールプレイング（小グループ）</p> <p>第10回 生徒理解、学級運営に関するディベート（小グループ）</p> <p>第11回 社会性、対人関係能力に関するディベート（小グループ）</p> <p>第12回 「学校現場における事例研究、現地調査」の成果の報告・討論（1）（中グループ）</p> <p>第13回 「学校現場における事例研究、現地調査」の成果の報告・討論（2）（中グループ）</p> <p>第14回 「学校現場における事例研究、現地調査」の成果の報告・討論（3）（中グループ）</p> <p>第15回 授業のまとめと課題達成度（資質能力）の確認（全員）</p>		
評価方法 (合計100%)	<p>グループ討論・ロールプレイング・ディベートへの参加態度40%、学校現場における事例研究及び現地調査に関する実践報告30%、授業で課すレポート30%を総合的に評価し、教員として最小限必要な資質能力を身につけているかを確認し、単位認定を行なう。</p>		
失格条件	<p>①授業を2回以上欠席した場合（公欠を除く） ②課題・提出物を期限内に提出しなかった場合 ③担当日時の決定した発表等を正当な理由なく行なわなかった場合</p>		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	<p>グループおよび個人での発表等の準備、及び、授業中に、その回の授業の内容に基づいて、また、次回の授業の準備として、各自自宅で書くようにと指定した課題レポート、あるいは、読むようにと指定した参考文献に関しては十分な時間（大学設置基準の定めによれば、1回の授業に対して4時間（大学の1時間は45分として考えることとなっているため、180分）以上）をかけて取り組むこと。</p>		
課題へのフィードバック	<p>授業で課題へのフィードバックを行う。</p>		
教科書	なし		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり（※B種科目等履修生対象）		

ナンバリング	NT403C01	期間	後期
授業科目名	教職実践演習(栄養教諭)		
英訳科目名	Teaching Practical Seminar(NutritionTeacher)		
担当教員名	山北 人志、小野 くに子		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	既に修得している栄養教諭としての知識・技能と栄養教育実習等で得られた食に関する指導力や生徒指導力の更なる統合を図り、栄養教諭としての使命感や責任感を培い、学校教育における確かな実践的指導力を養う。授業は、講義や演習、発表、ロールプレイ、模擬授業等を組み合わせ、実際の教育現場に即した課題を設定して進める。		
到達目標	①栄養教諭としての使命感や責任感、教育的愛情を形成している。 ②社会性や対人関係能力を形成している。 ③児童・生徒理解ができる。 ④食に関する指導の指導力を形成している。		
授業計画	第1回 インTRODクシヨンと教職の意義 (これまでの学修の振り返りについての講義・グループ討議)(担当・山北) 第2回 栄養教諭の使命感と役割、職務内容、子どもに対する責任感等について (グループ討議・ロールプレイング)(担当・山北) 第3回 児童・生徒理解 (児童・生徒理解と食に関する指導についてのグループ討議・ロールプレイング)(担当・山北) 第4回 社会性や対人関係能力について(講義・グループ討議)(担当・山北) 第5回 教職員・保護者との連携について(講義・グループ討議)(担当・山北) 第6回 学校給食の運営管理と食に関する指導との関連について(講義・グループ討議)(担当・山北) 第7回 家庭・地域との連携について(講義・グループ討議)(担当・山北) 第8回 学校現場の見学・調査(給食時間)(担当・小野) 第9回 学校現場の見学・調査(授業時間)(担当・小野) 第10回 学校現場の見学・調査報告・相互評価(担当・小野) 第11回 小学校における授業の研究(文部科学省 食育教材の活用)(担当・山北) 第12回 小学校における授業の研究(食育教材を使用した模擬授業)(担当・山北) 第13回 食に関する指導の指導力(チーム・ティーチング)について(講義・グループ討論)(担当・山北) 第14回 食に関する指導の指導力(チーム・ティーチング)について(模擬授業)(担当・山北) 第15回 教員の資質能力に必要な事柄についての確認・まとめ(担当・山北)		
評価方法 (合計100%)	・授業への積極的参加態度 15% ・演習課題 ・レポート ・学習指導案 ・模擬授業等の総合 85%		
失格条件	①5回以上(5回を含む)の欠席。20分以上の遅刻は欠席とし、20分未満の遅刻は3回で1回の欠席とする。 ②教職履修カルテ(栄養教諭)を提出しなかった者。		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・学校現場の見学・調査は小学校等において個別に実施する。 ・教科の教科書及び食生活学習指導教材(文部科学省)で食に関する指導の内容を復習しておくこと。 ・教職履修カルテにより自らの成果・課題をまとめておくこと。 ・講義で授業する内容を次回講義までに予習しておくこと。(2時間) ・講義終了時に出す課題について復習すること。(2時間)		
課題へのフィード バック	・演習・模擬授業については必要に応じて個別もしくは全体にコメントします。 ・レポート ・学習指導案 については授業時間内に返却し、解説します。		
教科書	栄養教諭論Ⅱ(栄養教育実習と同じ)		
著者名	金田雅代		
出版社	建帛社		
参考書	「栄養教諭論」金田雅代 建帛社		
その他	本科目は昨年度より開講した栄養教諭免許に必須の課目である。学びの軌跡の集大成として位置づけられている科目である趣旨を十分に理解し、履修すること。 ・教職実践演習(栄養教諭)を受講する条件 「栄養教育実習」を修得または履修中であること。 教科書は「栄養教育実習」と同じ。 「栄養教諭論Ⅱ」は学校栄養教育論Bと同じ。		
備考			
科目生への開講	あり(※発達栄養学科卒業生のみ対象)		



6-040

ナンバリング	TE403C05	期間	前期
授業科目名	教職特別演習 A		
英訳科目名	Special Educatinal Seminar A		
担当教員名	沼田 潤、長谷川 精一		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	教育や子ども・人間の発達に関する様々な問題から、テーマをひとつ選び、資料収集、調査、分析・考察、さらにその結果得たものをプレゼンテーションする仕方を学ぶ。授業では、発表者のプレゼンテーションにもとづき、質疑討論を行なう。		
到達目標	教育学や関連諸科学の基礎的な理論・知識の理解を超えて、それらを批判的に検討する意識や視点を獲得することを目指す。		
授業計画	第1回 導入 第2回 教育学的、科学的思惟の方法とは何か 第3回 資料収集や調査の方法、分析・考察の方法 第4回 プレゼンテーションの方法 第5～14回 専攻生各自による研究発表と討論 第15回 到達度確認		
評価方法 (合計100%)	プレゼンテーション、討論状況(意欲・態度)、レポートを総合的に勘案して評価する。 ①発表内容 30% ②授業への参加態度、特に討論への姿勢および貢献度 40% ③レポート 30%		
失格条件	2回以上の欠席(ただし公欠・正当な理由のある欠席を除く) 予定の日にプレゼンテーションを行わなかった場合		
予習・復習の準備 学習などのアドバイス	・自分の興味ある教育分野や子どもに関する分野の文献や雑誌を日頃より見つけ読んでおく。 ・次回の授業までに、予習3時間、復習1時間を目標として学習に取り組むこと。		
課題へのフィードバック	授業で課題へのフィードバックを行う。		
教科書	必要な場合は、参加者で討論して購読する文献を決定するが、予め指定はしない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり		

6-041

ナンバリング	TE403C06	期間	後期
授業科目名	教職特別演習B		
英訳科目名	Special EducatinalSeminarB		
担当教員名	沼田 潤、長谷川 精一		
ディプロマ・ポリシー1		ディプロマ・ポリシー2	◎
ディプロマ・ポリシー3		ディプロマ・ポリシー4	
ディプロマ・ポリシー5		ディプロマ・ポリシー6	
授業概要・ポイント	教育や子ども・人間の発達に関する様々な問題から、テーマをひとつ選び、資料収集、調査、分析・考察、さらにその結果得たものをプレゼンテーションする仕方を学ぶ。授業では、発表者のプレゼンテーションにもとづき、質疑討論を行なう。		
到達目標	教育学や関連諸科学の基礎的な理論・知識の理解を超えて、それらを批判的に検討する意識や視点を獲得することを目指す。		
授業計画	第1回 導入 第2回 教育学的、科学的思惟の方法とは何か 第3回 資料収集や調査の方法、分析・考察の方法 第4回 プレゼンテーションの方法 第5～14回 専攻生各自による研究発表と討論 第15回 到達度確認		
評価方法 (合計100%)	プレゼンテーション、討論状況(意欲・態度)、レポートを総合的に勘案して評価する。 ①発表内容 30% ②授業への参加態度、特に討論への姿勢および貢献度 40% ③レポート 30%		
失格条件	2回以上の欠席。ただし公欠・正当な理由のある欠席を除く 予定の日にプレゼンテーションを行わなかった場合		
予習・復讐の準備 学習などのアドバイス	・自分の興味ある教育分野や子どもに関する分野の文献や雑誌を日頃より見つけ読んでおく。 ・次回の授業までに、予習3時間、復習1時間を目標として学習に取り組むこと。		
課題へのフィード バック	授業で課題へのフィードバックを行う。		
教科書	必要な場合は、参加者で討論して購読する文献を決定するが、予め指定はしない。		
著者名			
出版社			
参考書			
その他	特になし		
備考			
科目生への開講	あり		

